香川県埋蔵文化財調査年報

平成8年度

1997.3

香川県埋蔵文化財研究会

例　　言

1．本書は、平成８年度の県内における埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。

2．発掘調査結果の概要を掲載した遺跡の位置は各遺跡毎に示し、文化財保護法に関する届出等については、一覧表（Ｐ４～Ｐ23）に示した。

3．本文頁は通し番号としたが、挿図・図版番号は遺跡ごとに付した。

4．遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委等主体の調査の順とした。配列はそれぞれ原則として西から東の地域への順とした。

5．香川県教育委員会事務局文化行政課職員が発掘調査指導を行った遺跡は、各市町の了解のもとに収録した。

6．各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の１地形図を使用した。

7．各遺跡の編集は執筆者が行い、全体編集を文化行政課が行った。

目　次

1．平成８年度埋蔵文化財保護行政の動向 …… 1

2．平成８年度埋蔵文化財保護行政，調査の状況 …… 4
平成８年度　文化財保護法に関する届出等
Ⅰ　遺跡発見の届出・通知（57条の５・６） …… 4
Ⅱ　埋蔵文化財発掘の届出・通知（57条の２・３） …… 4
Ⅲ　埋蔵文化財発掘調査の届出（57条） …… 8
Ⅳ－１埋蔵文化財発掘調査の通知（98条の２） …… 8
Ⅳ－２埋蔵文化財発掘調査の報告（98条の２） …… 14
Ⅴ　開発事業に伴う埋蔵文化財試掘調査（平成８年10月以降） …… 18
Ⅵ　埋蔵文化財現地踏査・立会調査の概況 …… 20

発掘調査の概況
（１）古江善光寺遺跡 …… 24
（２）池ノ下遺跡
川津井手の上遺跡 …… 26
（３）川津六反地遺跡 …… 27
（４）椎尾遺跡 …… 28
（５）下大橋・定兼遺跡 …… 31
（６）平木１・４号墳 …… 32
（７）史跡天然記念物屋島 …… 33
（８）小山・南谷遺跡
原中村遺跡 …… 34
（９）鹿伏・中所遺跡 …… 35
（10）石田高校校庭内遺跡 …… 37
（11）金毘羅山遺跡 …… 39
（12）樋端廃寺 …… 40
（13）神越遺跡 …… 41
（14）上母神８号墳
（母神山古墳群） …… 44
（15）久米東塚古墳
（母神山古墳群） …… 45
（16）延命遺跡 …… 46
（17）宗吉瓦窯跡 …… 47
（18）有岡古墳群（宮が尾古墳） …… 49
（19）和霊神社古墳隣接地 …… 50
（20）町代２号墳，町代遺跡 …… 51
（21）平池西遺跡 …… 52
（22）平池東遺跡 …… 53
（23）史跡丸亀城跡 …… 54
（24）沙弥千人塚遺跡 …… 55
（25）西長尾城跡 …… 56
（26）北ノ宮古墳，北山遺跡 …… 58
（27）北原遺跡 …… 61
（28）羽床城跡 …… 64
（30）西村遺跡 …… 65
（29）丸山窯跡（３・７・８号） …… 66
（31）御厩池遺跡 …… 69
（32）香西南西打遺跡
鬼無藤井遺跡 …… 72
（33）藤尾城跡 …… 73
（34）西ハゼ土居地区 …… 74
（35）木太中村地区 …… 75
（36）林谷遺跡
林下所遺跡 …… 76
（37）弘福寺田図比定地南地区遺跡 … 77
（38）宮西・一角遺跡 …… 78
（39）三谷町南海道推定地 …… 79
（40）川南東遺跡 …… 80
（41）史跡天然記念物屋島 …… 81
（42）新田本村遺跡 …… 82
（43）奥の坊地区 …… 83
（44）奥の坊権現前遺跡 …… 84
（45）由佐城跡 …… 85
（46）田中砂古遺跡 …… 86
（47）南天枝遺跡 …… 87
（48）陵遺跡 …… 88
（49）北山八坂古墳 …… 89
（50）石田高校校庭内遺跡 …… 90
（51）富田茶臼山古墳１号陪塚 …… 91
（52）王子の谷遺跡 …… 93
（53）金毘羅山遺跡 …… 95
（54）馬宿畑方遺跡 …… 96
（55）農学部遺跡 …… 97

3．平成８年度財香川県埋蔵文化財調査センターの発掘調査概況
（１）県事業に伴う調査状況 …… 98
（２）県道事業に伴う調査状況 …… 99
（３）横断道事業に伴う調査状況 …… 101
（４）国事業に伴う調査状況 …… 102

1．平成８年度埋蔵文化財保護行政の動向

1．はじめに

県教育委員会では、平成７年度に引き続き、国及び県の各種開発事業予定地の試掘調査を国庫補助事業等で実施するとともに、小規模な事前の発掘調査を実施した。県教育委員会が実施した試掘調査は45件、事前の発掘調査は６件であるが、ほかに、専門職員のいない町において、県教育委員会の指導のもと、実施した調査が２件ある。

また、大規模な発掘調査とこれに伴う整理作業について㈶香川県埋蔵文化財調査センターに委託し、28遺跡、72,624㎡の発掘調査を実施するとともに、過去に発掘調査を受託した遺跡のうち、12遺跡の整理作業と７遺跡の報告書印刷をおこなった。

一方、市町においては県下全体で31件の試掘調査を実施したが、そのうち１件は県教育委員会指導のもとに実施した。また、発掘調査については、遺跡保護を目的とした調査及び開発事業等に伴う事前調査があわせて20件（うち１件は県教育委員会の指導により実施）あり、この中には８年度新たに国史跡に指定された三野町宗吉瓦窯跡の試掘調査が含まれる。

2．埋蔵文化財保護体制の整備

平成８年度の香川県下では四国横断自動車道（津田～引田間）の整備を意識した種々の開発事業の増加に伴い、主に東讃地域での調査数が増加している。特に平成７年度に設置された大川郡８町で組織する一部事務組合の大川地区広域行政振興整備事務組合の調査数が飛躍的に増加し、多大な成果が得られている。しかしながら、発掘調査は、事務組合に教育委員会を設置しなかったことから、町教育委員会が調査主体となるため、事業者・町教育委員会・事務組合の三者の間での理解と合意が特に重要であり、今後とも関係者間で十分な調整を図りながら埋蔵文化財保護を進める必要がある。

また、平成８年度末における香川県下の埋蔵文化財保護体制は、県教育委員会文化行政課の埋蔵文化財担当職員３名（専門職員２・教員１）、㈶香川県埋蔵文化財調査センターの調査担当職員30名（専門職員19・教員11）の合計33名である。また、市町の埋蔵文化財専門職員については、大川地区広域行政振興整備事務組合で１名の増加を図ったほか、綾南町・三野町で新たに専門職員が配置された。一方で、国分寺町では職員の異動により専門職員が配置されなくなったことから、合計では県下市町において５市８町に配置されていることとなる。これを、大川広域行政振興整備事務組合を含めて全市町数に対する埋蔵文化財調査に即応できる職員の配置率に直すと46%となる。しかしながら、まだ５割強の町に調査能力を有する専門職員は設置されておらず、適正な保護体制の整備に向けて残った課題は多い。

県内の埋蔵文化財専門職員の配置状況

香川県	33名	観音寺市	１名	多度津町	１名
高松市	３名	寒川町	１名	高瀬町	１名
丸亀市	１名	三木町	１名	三野町	１名
坂出市	１名	綾南町	１名	豊中町	１名
善通寺市	１名	綾歌町	１名	大川広域	３名

合計　51名

3．開発事業の動向と発掘調査の状況

県下における開発事業については、東讃地域における基幹交通網の整備が中心で、四国横自動車断道（三木～津田区間）の工事が本格化し、高松市内区間及び津田～引田区間についても用地買収が進行中である。この四国横断自動車道の整備に関連してアクセス道路の整備や工場団地、住宅団地等の造成事業等、主にハード面での資本整備が急速に進みつつあり、この傾向は次年度以降も継続することが予想される。また、高松市内では高松空港跡地の再開発事業及び高松港頭地区開発事業の二大プロジェクトに伴う関連事業が活発で、開発事業が減少に向かう傾向はみられない。基幹交通網の整備がほぼ終了に向かいつつある西讃地域にしてもソフト面での充実が図られつつあり、小規模な開発事業はむしろ増加傾向にある。

こうした、多岐にわたる開発事業に伴い埋蔵文化財保護事務量は増加の一途をたどっており、適切に対処するためには、今後専門職員の充実・資質向上等を含めた緊急の措置が必要であろう。

4．史跡等の保存と活用

平成８年度香川県下では、三豊郡三野町に所在する「宗吉瓦窯跡（むねよしがようあと）」が、平成８年９月10日付けで新たに国史跡に指定された。同瓦窯跡は古代港湾と推定される三野津の最奥部に立地し、これまでの調査では、奈良県橿原市に所在する藤原宮で使用されたものと同笵の軒丸瓦が生産されたことが判明している。７世紀末の中央政権と讃岐地方の関係を知る上で極めて重要な遺跡である。

一方、国庫補助による史跡整備事業としては、昨年度から引き続いて、史跡丸亀城跡（丸亀市）、史跡有岡古墳群（善通寺市）の保存修理事業及び史跡富田茶臼山古墳（大川町）の土地公有化事業が実施されている。史跡丸亀城跡では、昨年度から引き続き帯曲輪西石垣の修復作業を行い、昨年度の調査成果に基づき石垣の積み直し工事を実施している。史跡有岡古墳群（宮が尾古墳）では、３年計画の最終年度に当たり、昨年度までの調査成果に基づいた保存整備事業が行われた。これにより、王墓山古墳に続き善通寺市内で２例目の古墳の整備が完了したこととなる。

また、県教育委員会では、史跡に指定されていないものの、高松西高等学校第２体育館建設に伴い高校敷地内に所在する「平木１号墳」の保存整備事業を実施しており、今後「生きた教材」としての活用が図られることとなった。

5．発掘調査の成果

各時代ごとに注目される調査を紹介する。

旧石器時代については、調査例は少ないものの、高松市中間町の中間東井坪遺跡では、瀬戸内技法の存在を示す翼状剥片や国府型ナイフ形石器等が出土しており、隣接する中間西井坪遺跡と比較検討する上でも貴重な成果を得ている。

縄文時代についても、今年度はまとまった検出例は知られていないが、高松市東植田町の竹元遺跡や大内町金毘羅山遺跡では弥生時代後期の遺構面の下から晩期の突帯文土器が出土しており、今後当該期の遺物の検出例は増加するものと考えられる。

弥生時代では、善通寺市で実施された旧練兵場遺跡の調査が挙げられる。同遺跡は弥生時代における拠点集落として著名であるが、今年度初めて大規模な調査が実施され、弥生時代中期～後期の竪穴住居等を多数検出している。また、長尾町の陵遺跡では後期の円形周溝墓が検出され、主体部では木棺痕跡を残す墓坑が検出されており注目される。

古墳時代の調査では、坂出市高屋町の雄山古墳群の調査が挙げられる。今回の調査により従来4基と想定されていた古墳群で新たに3基の古墳が確認され計7基となった。調査は4基について実施され、九州の竪穴系横口式石室の影響を多分に受けた石室が検出され、人物埴輪・鏡などが出土している。石室の形態及び出土遺物から6世紀中頃の短期間に築造されたものと考えられ、瀬戸内海を通じての九州との関係を考える上で注目される。

古代においては、前述した三野町宗吉瓦窯跡において試掘調査が実施され、新たに5基の瓦窯跡が発見された。これにより、確認された瓦窯跡数は計16基に及び、従来から指摘されていた集中生産体制の実像がより明らかになりつつある。

中世においては、高松市香西南町・鬼無町の西打遺跡において屋敷跡等を検出している。今年度は次年度調査対象地の予備調査も実施しており、居住域と耕作地との関係を示唆する調査結果を得ている。周辺部は条里跡が明瞭に残る地域で、条里地割と屋敷地の関係及びその変遷について、次年度以降の調査で大きな成果が得られるものと期待される。

近世については、昨年度から継続して発掘調査を実施している高松城西の丸地区で多大な成果が得られている。まず第1に、調査成果と古絵図の比較検討が行えるようになったことが挙げられる。特に、「高松城下図屏風」等の絵図に記された、調査地を南北に縦断する鍵型の道路跡の検出は、古絵図の精度及び城下地割の変遷を知るうえで非常に興味深い。第2には生駒期の形成層の下から中世の遺構・遺物が検出されたことである。調査地は中世荘園として著名な野原荘の北側で荘域には比定できないものの、その関連性が注目される。

6．その他

平成9年2月に文化庁から「出土品の取扱いについて」と題する報告が出された。この報告では、出土品の文化財としての価値やその取扱いに関する制度等を概観するとともに、出土品の保管・管理や活用の現状と課題及び改善方策について検討結果を述べている。

注目されるのは、出土品を選択して保管・管理すべきとであるとした点であり、貝塚から出土する貝殻等の人間活動との関わりが比較的小さいもの、近世以降の瓦のように大量生産された規格品等について、都道府県が各地域の状況にあわせて一定の基準を定めて出土品を保管・管理する必要があるなどとしている。

これを受けて、今後県教育委員会が主体となって出土品の保管・管理の基準を作成することとなるが、県内の埋蔵文化財を適切に取扱うため、市町教育委員会と連携しながら作成作業を進める必要がある。

平成８年度　文化財保護法に関する届出等

Ⅰ　遺跡発見の通知・届出（57条の５・６）

番号	位置	原因	発見者
1	大川郡白鳥町松原	分布調査	白鳥町長　久野　耕市
2	大川郡白鳥町大字白鳥字北池1632	農業関連	大川土地改良事務所所長　広瀬　恵二
3	三豊郡仁尾町大字仁尾字古江	道路	観音寺土木事務所長
4	高松市鬼無町佐藤1087	その他の開発	香川県知事　平井　城一
5	綾歌郡陵南町大字陶字下大橋、定兼	その他の開発	坂出土木事務所長
6	坂出市川津町字井手の上	道路	坂出土木事務所長
7	綾歌郡綾歌町北原1178－３	農業関連	綾歌土地改良事務所所長　和田　昭二
8	木田郡三木町大字田中1722	農業関連	中部土地改良事務所所長　藤沢　武

Ⅱ　埋蔵文化財発掘の届出・通知（57条の２・３）

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	平池西遺跡	丸亀市金倉町783ほか	集落跡	縄文～弥生	８教文発第15－１号
2	寺田・産宮通遺跡	大川郡大川町大字富田西	集落跡	弥生～奈良	８教文発第15－２号
3	川津川西遺跡	坂出市川津町井手の上西二	集落跡	弥生～中世	８教文発第15－３号
4	遍照院裏山古墳、雄山４号墳他	坂出市高屋町塩口	古墳、城館跡ほか	旧石器～中世	８教文発第15－４号
5	南天枝遺跡	木田郡三木町大字田中	集落跡	古墳～平安	８教文発第15－５号
6	尾端遺跡	木田郡三木町大字田中	集落跡	古墳～平安	８教文発第15－６号
7	原中村遺跡	木田郡牟礼町大字原字中村	集落跡	弥生～中世	８教文発第15－７号
8	竹元遺跡	高松市東植田町	集落跡	縄文～弥生	８教文発第15－８号
9	兀塚遺跡	高松市檀紙町・円座町ほか	集落跡	弥生～平安	８教文発第15－９号
10	花池尻遺跡	大川郡志度町志度字花池尻	集落跡	中世	８教文発第15－10号
11	七ツ塚古墳群	木田郡三木町池戸	古墳	古墳	８教文発第15－11号
12	馬宿畑方遺跡	大川郡引田町馬宿畑方470他	その他の遺跡	奈良～中世	８教文発第15－12号
13	宮山窯跡	三豊郡豊中町比地大字宮ノ下	生産遺跡	古墳	８教文発第15－13号
14	神越遺跡	大川郡白鳥町大字白鳥字寺前	集落跡	弥生～古墳	８教文発第15－14号
15	西村遺跡	綾歌郡陵南町大字陶字西村北	集落跡	平安～中世	８教文発第15－15号
16	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町１丁目1303－３	集落跡	弥生～奈良	８教文発第15－16号
17	平木１号墳	高松市鬼無町佐藤921－１ほか	古墳	古墳	８教文発第15－17号

発　見　日	遺跡の種類	遺跡の時代	指導内容	香川県文書番号・日付
平成8年2月9日	その他の遺跡	近世	現状保存	8教文発第16－1号 平成8年5月30日
平成8年6月11日	社寺跡	中世	工事立会	8教文発第16－2号 平成8年6月24日
平成8年6月26日	生産遺跡・社寺跡	弥生・中世	発掘調査	8教文発第16－3号 平成8年7月25日
平成8年7月6日	古墳	古墳	発掘調査	8教文発第16－4号 平成8年8月1日
平成8年10月3日	集落跡	弥生・中世	慎重工事	8教文発第16－5号 平成8年10月24日
平成8年11月29日	集落跡	弥生	発掘調査	8教文発第16－6号 平成9年1月13日
平成8年12月16日	集落跡	弥生	発掘調査	8教文発第16－7号 平成9年1月16日
平成9年1月16日	集落跡	弥生～中世	慎重工事	8教文発第16－8号 平成9年2月13日

事業目的	事業主体	事業面積(㎡)	事業期間	指導内容
その他の開発	丸亀市	500㎡	8．7．1～9．3．31	発掘調査
道路	香川県	1,544㎡	8．7．1～11．3．31	発掘調査
道路	香川県	1,500㎡	9．7．1～10．3．25	発掘調査
道路	香川県	6,328㎡	10．7．1～11．3．25	発掘調査
道路	香川県	3,800㎡	8．9．1～9．3．31	発掘調査
道路	香川県	4,200㎡	9．4．1～10．3．31	発掘調査
道路	香川県	1,500㎡	8．6．1～9．3．31	発掘調査
道路	香川県	390㎡	8．9．1～9．2．31	発掘調査
道路	香川県	3,900㎡	8．4．1～9．3．31	発掘調査
道路	志度町	929㎡	8．10．1～9．3．31	発掘調査
農業関連	香川県	150㎡	8．6．1～9．3．31	慎重工事
その他の開発	引田町	2,572㎡	8．7．1～10．3．31	発掘調査
農業関連	香川県	40㎡	8．9．1～9．3．31	工事立会
農業関連	香川県	4,418㎡	8．5．25～8．12．20	工事立会 慎重工事
道路	香川県	30㎡	8．7．9～8．9．17	発掘調査
住宅	四国農業試験場	217.21㎡	8．8．1～8．8．30	工事立会
その他の開発	香川県	6,614㎡	8．6．12～8．11．30	現状保存

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
18	王子の谷遺跡	大川郡大内町土居	集落跡	古墳～中世	8教文発第15－18号
19	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東字東原甲	集落跡	弥生～奈良	8教文発第15－19号
20	由佐城跡	香川郡香南町大字由佐字中屋	城館跡	中世	8教文発第15－20号
21	富田茶臼山古墳1号陪塚	大川郡大川町富田中3334－2	古墳	古墳	8教文発第15－21号
22	一支部南遺跡	大川郡白鳥町大字成重	集落跡	弥生～平安	8教文発第15－22号
23	池ノ下遺跡	丸亀市飯野町大字東分字池ノ下	集落跡	中世	8教文発第15－23号
24	西村遺跡	綾歌郡陵南町大字陶字西村北	集落跡	平安～中世	8教文発第15－24号
25	丸山窯跡3号・6号	綾歌郡陵南町大字陶字丸山	生産遺跡	平安	8教文発第15－25号
26	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町2－1－1	集落跡	弥生～古墳	8教文発第15－26号
27	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町2－1－1	集落跡	弥生～古墳	8教文発第15－27号
28	西村遺跡	綾歌郡陵南町大字陶字下大橋	集落跡	平安～中世	8教文発第15－28号
29	香西南遺跡	高松市香西南町271	集落跡	中世	8教文発第15－29号
30	農学部遺跡	木田郡三木町大字池戸2393	集落跡	弥生～中世	8教文発第15－30号
31	新田本村遺跡	高松市新田町595－3ほか	集落跡	奈良～平安	8教文発第15－31号
32	下大橋・定兼遺跡	綾歌郡陵南町陶字下大橋、定兼	集落跡	弥生～中世	8教文発第15－32号
33	北原遺跡	綾歌郡綾歌町北原1156－2	集落跡	平安～中世	8教文発第15－33号
34	丸山窯跡	綾歌郡陵南町陶字内間、字丸山	生産遺跡	平安～中世	8教文発第15－34号
35	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東字東原甲	集落跡	弥生～奈良	8教文発第15－35号
36	馬篠観音院	大川郡大内町馬篠227	散布地	中世	8教文発第15－36号
37	北ノ宮古墳	綾歌郡綾歌町岡田西1462	古墳	古墳	8教文発第15－37号
38	宮西・一角遺跡	高松市林町字宮西76－56ほか	散布地・集落跡	弥生	8教文発第15－38号
39	奥の坊権現前遺跡	高松市高松町字奥の坊	散布地	弥生～中世	8教文発第15－39号
40	西浦谷遺跡	木田郡三木町池戸	集落跡	弥生	8教文発第15－40号
41	藤尾城跡	高松市香西本町465	城館跡	中世～近世	8教文発第15－41号
42	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東字風配甲	集落跡	弥生～古墳	8教文発第15－42号
43	町代2号墳	仲多度郡満濃町大字長尾	古墳	古墳	8教文発第15－43号
44	鬼無藤井遺跡・香西南西打遺跡	高松市鬼無町藤井59－1ほか	集落跡	弥生～近世	8教文発第15－44号
45	西村遺跡	綾歌郡陵南町大字陶字川北東	集落跡	平安～中世	8教文発第15－45号

事業目的	事業主体	事業面積(㎡)	事業期間	指導内容
農業関連	大内町	26,570㎡	8．7．25～9．3．31	発掘調査
水道	香川県	86.5㎡	8．8．8～8．10．23	工事立会
その他建物	香南町	2,676㎡	未定～9．3．25	発掘調査
宅地造成	松岡　輝夫	400㎡	8．9．17～8．10．31	発掘調査
農業関連	香川県	11,000㎡	8．7．24～9．2．8	工事立会 慎重工事
道路	香川県	430㎡	8．10．30～9．3．25	発掘調査
宅地造成	中條　哲夫 中條かずよ	507㎡	9．1．10～9．6．30	工事立会
宅地造成	田村アヤ子	2,404㎡	9．1．30～9．3．31	工事立会
その他の開発	国立善通寺病院	3,000㎡	9．3．11～11．3．31	発掘調査
その他の開発	国立善通寺病院	355㎡	8．9．24～9．3．20	工事立会
道路	香川県	60㎡	8．8．24～8．11．29	慎重工事
河川	香川県	1,500㎡	8．9．10～9．2．28	発掘調査
学校	香川大学	100㎡	9．1．16～9．3．30	発掘調査
道路	高松市	3,600㎡	8．10．28～9．3．28	発掘調査
その他の開発	香川県	200㎡	8．11．1～9．3．28	発掘調査
香川県	香川県	500㎡	8．11．27～9．3．26	発掘調査
その他の開発	香川県	1,076㎡	未定	発掘調査
その他の開発	香川県	15㎡	8．11．26～8．12．10	発掘調査
土地区画整理	大内町	670㎡	9．1．10～9．3．25	工事立会 慎重工事
道路・土地区画整理	綾歌町	75㎡	8．12．4～9．3．29	発掘調査
道路	高松市	167.66㎡	9．1．25～9．3．31	発掘調査
公園造成	高松市	471,631㎡	10．4～	発掘調査
道路	建設省	2,272㎡	8．8．1～9．3．31	発掘調査
その他の開発	高松市	206㎡	9．1．7～9．3．27	発掘調査
宅地造成	石川正美	2,380㎡	9．4．1～9．6．30	発掘調査 慎重工事
土地区画整理	満濃町	100㎡	9．9．1～10．3．31	発掘調査
道路・その他の建物	高松市	897㎡	9．2．17～9．3．17	発掘調査
宅地造成	中小企業	4,504㎡	9．5．1～9．12．31	発掘調査

Ⅲ　埋蔵文化財発掘調査の届出（57条）

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	中の池遺跡	丸亀市金倉町字上下所	集落跡	縄文～弥生	8教文発第19－1号
2	農学部遺跡	木田郡三木町池戸	集落跡	弥生・中世	8教文発第19－2号

Ⅳ－1　埋蔵文化財発掘調査の通知（98条の2）

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
1	香川郡条里・正箱遺跡	高松市檀紙町、中間町	集落跡条里	旧石器～平安	四国横断自動車道（高松市内区間）建設	道路公団
2	南天枝・尾端遺跡	木田郡三木町田中字尾端	集落跡	弥生～中世	県道高松長尾大内線建設	香川県
3	兀塚遺跡	高松市檀紙町	集落跡	奈良、平安	県道三木国分寺線改良	香川県
4	寺田・産宮通遺跡	大川郡大川町富田西	集落跡	弥生、中世	県道富田西志度線改良	香川県
5	遍照院裏山古墳、雄山4号墳ほか	坂出市高屋町	古墳、城館跡ほか	古墳、中世	県道高松王越坂出線建設	香川県
6	原中村遺跡	木田郡牟礼町大字原字中村	集落跡	奈良、中世	県道高松志度線建設	香川県
7	高松城跡	高松市西の丸町	城館跡	近世	高松港頭地区土地区画整理	香川県
8	小谷1～3号窯跡	木田郡三木町大字井上	生産遺跡	古墳、奈良	高松東ファクトリーパーク造成	香川県
9	塚谷1、2号墳	木田郡三木町大字井上	古墳	古墳	高松東ファクトリーパーク造成	香川県
10	平池西遺跡	丸亀市金倉町字上下所	散布地	縄文、弥生	総合運動公園建設	丸亀市
11	井手の上地区	坂出市川津町	その他の遺跡	不明	国道438号線道路改良	香川県
12	六反地地区	坂出市川津町六反地	その他の遺跡	不明	中小河川城山川河川改修	香川県
13	東分地区	丸亀市飯野町東分	その他の遺跡	不明	県道飯野宇多津線道路整備	香川県
14	天神地区	大川郡大川町大字富田中字天神	その他の遺跡	不明	県営ほ場整備	香川県
15	西山田古墳群	大川郡長尾町造田	古墳	古墳	工業団地（流通センター）造成	長尾町
16	藤井地区	高松市鬼無町藤井	その他の遺跡	不明	中小河川本津川改修	香川県

事業目的	調査主体	調査面積	調査期間	指導内容
運動公園造成	松本考古学研究所	974㎡	8．5．1～8．6．30	慎重に調査実施
大学内施設設置	香川大学	100㎡	8．12．25～9．1．11	慎重に調査実施

対処	調査主体	面積	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	香川県教委	10,000	8．4．1 ～ 9．9．30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	8,000	8．4．1 ～ 9．3．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	3,900	8．4．1 ～ 8．9．30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	1,544	8．4．1 ～ 8．6．30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	6,328	8．4．1 ～ 8．9．30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	1,500	8．4．1 ～ 8．6．30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	3,639	8．4．1 ～ 9．1．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	8,800	8．4．1 ～ 8．9．30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	7,000	8．4．1 ～ 8．9．30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	丸亀市教委	1,800	8．4．1 ～ 8．4．12	丸亀市教委 東　信男	丸亀市	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	香川県教委	126	8．4．9	文化行政課 木下晴一・塩崎誠司	国・県	包蔵地確認されず
試掘調査	香川県教委	40	8．4．10	文化行政課 木下　晴一	国・県	包蔵地確認 平９事前調査予定
試掘調査	香川県教委	90	8．4．15	文化行政課 木下　晴一	国・県	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	香川県教委	110	8．4．22 ～ 8．4．23	文化行政課 塩崎　誠司	国・県	包蔵地確認 協議中
事前調査	長尾町教委	500	8．4．1 ～ 8．5．13	大川広域 阿河　鋭二	長尾町	工事実施
試掘調査	香川県教委	80	8．4．25	文化行政課 塩崎　誠司	国・県	包蔵地確認されず

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
17	金倉道上地区	丸亀市金倉町812、813番地	その他の遺跡	不明	市道原田金倉線改修	丸亀市
18	楠谷地区	大川郡大内町水主	その他の遺跡	不明	県営ほ場整備	香川県
19	金比羅山遺跡	大川郡大内町水主	集落跡	弥生～中世	県営ほ場整備	香川県
20	長崎鼻石蓋遺構遺跡	坂出市沙弥北通223	散布地	弥生	遺跡整備	坂出市
21	花池尻遺跡	大川郡志度町大字志度字花池尻	散布地	中世	町道藤村西線建設	志度町
22	神越遺跡	大川郡白鳥町樋端	散布地	弥生	県営ほ場整備	香川県
23	馬宿畑方遺跡	大川郡引田町馬宿畑方470、471番地	集落跡	奈良、中世	農業集落排水事業黒羽地区処理施設建設	引田町
24	吉野下・秀石遺跡	仲多度郡満濃町吉野下460番地ほか	集落跡	古墳、奈良	国道32号線満濃バイパス建設	建設省
25	中間町東井坪地区	高松市中間町512－7ほか	散布地	弥生	市道中間45号線改良	高松市
26	天満地区	丸亀市天満町1丁目777ほか	その他の遺跡	不明	市立塩屋保育所移転	丸亀市
27	小山南谷遺跡	高松市新田町	集落跡	奈良～中世	県道高松志度線改良	香川県
28	平塚地区	三豊郡大野原町大字大野原字平塚	その他の遺跡	不明	健康交流施設おおのはら（仮称）建設	大野原町
29	窪田・佐古川地区	綾歌郡綾歌町栗熊字窪田、佐古川	その他の遺跡	不明	国道32号線綾歌バイパス建設	建設省
30	中村地区	木田郡牟礼町大字原字中村	その他の遺跡	不明	県立医療短期大学建設	香川県
31	平木４号墳	高松市鬼無町佐藤	古墳	古墳	高松西高校施設建設	香川県教委
32	古江善光寺遺跡	三豊郡仁尾町古江	集落跡生産遺跡	弥生～中世	県道詫間仁尾線改良	香川県
33	中村地区	木田郡牟礼町大字原字中村	その他の遺跡	不明	県立医療短期大学建設	香川県
34	由佐城跡	香川郡香南町大字由佐字中屋	城館跡	中世	香南町歴史民俗資料館（仮称）建設	香南町
35	奥の坊遺跡	高松市高松町奥の坊	散布地集落跡	弥生～近世	高松市東部運動公園（仮称）整備	高松市

対　処	調査主体	面　積	調査期間	担　当　者	費用負担	調査後の措置等
試掘調査	丸亀市教委	20	8. 5. 15 ～ 8. 6. 28	丸亀市教委 東　信男	丸　亀　市	包蔵地確認されず
試掘調査	香川県教委	90	8. 5. 1	文化行政課 塩崎　誠司	国　・　県	包蔵地確認協議中
試掘調査	香川県教委	300	8. 4. 15 ～ 8. 5. 14	大川広域 萬木　一郎	大　内　町	工事実施
試掘調査	坂出市教委	4	8. 5. 24 ～ 8. 6. 28	坂出市教委 今井　和彦	国・県・市	遺跡整備
事前調査	志度町教委	558	8. 5. 6 ～ 8. 6. 10	大川広域 阿河　鋭二	志　度　町	工事実施
試掘調査	香川県教委	100	8. 6. 5 ～ 8. 6. 6	文化行政課 塩崎　誠司	国　・　県	包蔵地確認 協議中
事前調査	引田町教委	2,572	8. 5. 1 ～ 8. 6. 30	大川広域萬木　一郎	引　田　町	工事実施
事前調査	香川県教委	1,192	8. 6. 1 ～ 8. 8. 31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	建　設　省	工事実施
試掘調査	高松市教委	560	8. 6. 3 ～ 8. 6. 7	高松市教委 山本　英之	高　松　市	工事実施
試掘調査	丸亀市教委	241	8. 7. 15 ～ 8. 7. 31	丸亀市教委 東　信男	丸　亀　市	包蔵地確認されず
事前調査	香川県教委	80	8. 7. 2 ～ 8. 7. 5	文化行政課 塩崎　誠司	香　川　県	工事実施
試掘調査	大野原町教委	200	8. 6. 24 ～ 8. 6. 26	町教委　藤川　正明 県教委指導	大野原町	包蔵地確認されず
試掘調査	香川県教委	426	8. 7. 4 ～ 8. 7. 5	文化行政課 木下　晴一	国　・　県	包蔵地確認 平9事前調査予定
試掘調査	香川県教委	300	8. 7. 8 ～ 8. 7. 10	文化行政課 木下・塩崎	国　・　県	包蔵地一部確認 平9事前調査予定
事前調査	香川県教委	100	8. 7. 11 ～ 8. 8. 5	文化行政課 塩崎　誠司	香川県教委	工事実施
事前調査	香川県教委	30	8. 7. 12	文化行政課 塩崎　誠司	香　川　県	工事実施
試掘調査	香川県教委	250	8. 7. 25 ～ 8. 7. 26	文化行政課 木下　晴一	国　・　県	包蔵地確認されず
試掘調査	香南町教委	50	8. 7. 29 ～ 8. 7. 30	町教委　小西　省三 県教委指導	香　南　町	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	高松市教委	300	8. 7. 18 ～ 8. 8. 9	高松市教委 大嶋　和則	高　松　市	包蔵地確認 事前調査

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
36	小路遺跡隣接地区	三豊郡豊中町大字比地大字小路	その他の遺跡	不明	大規模小売り店舗建設	民間
37	西村遺跡	綾歌郡綾歌町大字陶字西村北	集落跡	奈良～中世	県道府中琴南線改良	香川県
38	沙弥千人塚	坂出市沙弥南通り65、66	古墳	古墳	遺跡整備	坂出市
39	北原・原南地区	香川郡香南町大字池内字北原ほか	その他の遺跡	不明	県道千疋高松線建設	香川県
40	鹿伏・中所遺跡	木田郡三木町鹿伏	集落跡	弥生	県立三木高校駐輪場建設	香川県教委
41	一支部南地区	大川郡白鳥町白鳥	その他の遺跡	不明	県営ほ場整備	香川県
42	西ハゼ町土居地区	高松市西ハゼ町163－1ほか	その他の遺跡	不明	都市計画道路木太鬼無線建設	高松市
43	神野地区	大川郡津田町津田501－1ほか	その他の遺跡	不明	宅地造成	津田町
44	城北地区	大川郡津田町津田字下川北	その他の遺跡	不明	津田町老人保健施設建設	津田町
45	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町1－3－1	集落跡	弥生、古墳	ＬＩＳＡ機能開発温室新築等	四国農業試験場
46	香西南遺跡	高松市香西南町	集落跡	中世	中小河川本津川改修	香川県
47	丸山窯跡	綾歌郡綾歌町大字陶字丸山西	生産遺跡	古代	水道局第３投棄場整備	香川県
48	林坊城遺跡	高松市林町1443－1ほか	その他の遺跡	縄文、弥生	四国横断自動車道（高松市内区間）建設	道路公団
49	中谷地区	大川郡津田町鶴羽2405－1ほか	その他の遺跡	不明	四国横断自動車道（津田～引田間）建設	道路公団
50	大山地区	大川郡津田町鶴羽2669－1ほか	その他の遺跡	不明	四国横断自動車道（津田～引田間）建設	道路公団
51	王子の谷遺跡	大川郡大内町土居452－1ほか	集落跡	古墳～中世	農村総合整備事業	大内町
52	由佐城跡	香川郡香南町大字由佐字中屋	城館跡	中世	香南町歴史民俗資料館（仮称）建設	香南町
53	三条黒島地区	丸亀市三条町1132－3、1133－6	その他の遺跡	不明	市道三条南北線建設	丸亀市
54	平池東遺跡	丸亀市金倉町911、918	集落跡	弥生	丸亀総合運動公園ふるさと交流広場新設	丸亀市

対　処	調査主体	面　積	調査期間	担　当　者	費用負担	調査後の措置等
試掘調査	豊中町教委	26	8．8．6 ～ 8．8．31	豊中町教委 森　裕行	豊　中　町	包蔵地確認されず
事前調査	香川県教委	30	8．8．9	文化行政課 塩崎　誠司	香　川　県	工事実施
試掘調査	坂出市教委	75	8．8．22 ～ 8．9．30	坂出市教委 今井　和彦	国・県・市	遺跡整備
試掘調査	香川県教委	120	8．8．14 ～ 8．8．15	文化行政課 塩崎　誠司	国　・　県	包蔵地一部確認 協議中
事前調査	香川県教委	160	8．8．12 ～ 8．9．10	文化行政課 木下　晴一	香川県教委	工事実施
試掘調査	香川県教委	80	8．8．27	文化行政課 塩崎　誠司	国　・　県	包蔵地確認 協議中
試掘調査	高松市教委	420	8．8．5 ～ 8．8．12	高松市教委 山元　敏裕	国・県・市	包蔵地確認 協議中
試掘調査	津田町教委	100	8．7．29	大川広域 高畠　豊	津　田　町	包蔵地確認されず
試掘調査	津田町教委	150	8．9．2 ～ 8．9．5	大川広域 高畠　豊	津　田　町	包蔵地確認されず
試掘調査	香川県教委	40	8．9．10	文化行政課 塩崎　誠司	四国農業 試験場	包蔵地確認されず
事前調査	香川県教委	1,500	8．7．1 ～ 8．9．30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香　川　県	工事実施
事前調査	香川県教委	1,076	8．7．1 ～ 8．9．30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香　川　県	工事実施
事前調査	香川県教委	520	8．9．9 ～ 8．9．13	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	調査継続
事前調査	香川県教委	420	8．9．17 ～ 8．9．27	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	調査継続
事前調査	香川県教委	2,270	8．9．30 ～ 8．10．16	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	調査継続
事前調査	大内町教委	1,500	8．7．12 ～ 8．9．30	大川広域 萬木　一郎	大　内　町	工事実施
事前調査	香南町教委	2,676	8．9．2 ～ 8．9．30	片桐　節子	香　南　町	工事実施
試掘調査	丸亀市教委	50	8．9．24 ～ 8．9．26	丸亀市教委 東　信男	丸　亀　市	包蔵地確認されず
試掘調査	丸亀市教委	200	8．10．8 ～ 8．10．11	丸亀市教委 東　信男	丸　亀　市	包蔵地確認 事前調査

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
55	船越遺跡	三豊郡詫間町大字大浜字船越	集落跡	縄文、古墳	県道紫雲出山線改良	香川県
56	竹元遺跡	高松市東植田町東植田字竹元	集落跡	縄文、弥生	県道塩江屋島西線改良	香川県
57	大内町川東地区	大川郡大内町川東	その他の遺跡	不明	県道大内白鳥インター線改良	香川県
58	北ノ宮古墳	綾歌郡綾歌町岡田西1459－1ほか	古墳	古墳	団体営土地改良総合整備事業成願寺地区	綾歌町
59	富田茶臼山古墳1号陪塚	大川郡大川町富田中3332番地	古墳	古墳	宅地造成	個人

Ⅳ－２埋蔵文化財発掘調査の報告（98条の２）

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
60	中谷地区	大川郡津田町鶴羽2405－1ほか	集落跡	中世	四国横断自動車道（津田～引田間）建設	道路公団
61	山田郡条里Ａ地区	高松市林町2040－1ほか	散布地	弥生～中世	四国横断自動車道（高松市内区間）建設	道路公団
62	山田郡条里Ｂ地区	高松市林町2104－1ほか	散布地	弥生～中世	県道中徳三谷高松線改良	香川県
63	川津川西遺跡	坂出市川津町72－2ほか	集落跡	弥生、中世	国道438号線改良	香川県
64	大山遺跡	大川郡津田町鶴羽	集落跡	中世	四国横断自動車道（津田～引田間）建設	道路公団
65	西浦谷遺跡	木田郡三木町池戸	集落跡	弥生	国道11号線バイパス（高松東道路）建設	建設省
66	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町2－1－1	集落跡	弥生、古墳	国立善通寺病院看護学校等建設	国立善通寺病院
67	空港跡地遺跡	高松市林町	集落跡	弥生、古墳	インテリジェントパーク整備	県土地開発公社
68	池ノ下遺跡	丸亀市飯野町東分字池ノ下	集落跡	中世	県道飯野宇多津線ふるさとづくり道路整備	香川県
69	下屋敷地区	大川郡大内町水主4611ほか	散布地	中世	四国横断自動車道（津田～引田間）建設	道路公団
70	林坊城遺跡	高松市林町1453－1ほか	集落跡	縄文、弥生	四国横断自動車道（高松市内区間）建設	道路公団
71	宮西遺跡ほか	高松市林町６－34ほか	散布地生産遺跡	弥生～中世	第２次弘福寺領田図調査事業	高松市教委

対　処	調査主体	面　積	調査期間	担　当　者	費用負担	調査後の措置等
試掘調査	香川県教委	20	8．9．26	文化行政課 塩崎　誠司	国・県	包蔵地確認されず
試掘調査	香川県教委	30	8．9．30	文化行政課 塩崎　誠司	国・県	包蔵地確認 事前調査
試掘調査	香川県教委	580	8．9．27 ～ 8．10．1	文化行政課 木下　晴一	国・県	包蔵地一部確認 平９事前調査予定
試掘調査	綾歌町教委	50	8．9．27 ～ 8．9．30	綾歌町教委 近藤　武司	国・県・町	包蔵地確認 事前調査
事前調査	大川町教委	400	8．9．1 ～ 8．10．31	大川広域 高畠　豊	大川町	工事実施

対　処	調査主体	面　積	調査期間	担　当　者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	香川県教委	155	8．9．24 ～ 8．9．27	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	調査継続
事前調査	香川県教委	362	8．10．1 ～ 8．11．30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	調査継続
事前調査	香川県教委	474	8．10．1 ～ 8．11．30	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	調査継続
事前調査	香川県教委	1,500	8．10．1 ～ 8．12．31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	2,113	8．10．1 ～ 9．1．31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	2,272	8．10．1 ～ 9．1．31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	建設省	工事実施
事前調査	香川県教委	3,000	8．10．1 ～ 9．3．31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	国立善通寺 病院	工事実施
事前調査	香川県教委	5,700	8．10．1 ～ 9．3．31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	430	8．10．7 ～ 8．10．21	文化行政課 木下　晴一	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	214	8．10．22 ～ 8．10．25	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	調査継続
事前調査	香川県教委	204	8．10．28 ～ 8．10．31	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	調査継続
確認調査	高松市教委	1,000	8．11．1 ～ 9．3．31	高松市教委 山本　英之	国・県・市	現状保存

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
72	香川郡条里A地区	高松市中間町東井坪 479－1ほか	その他の遺跡	奈良、平安	四国横断自動車道（高松市内区間）建設	道路公団
73	八反地遺跡 延命遺跡	三豊郡豊中町大字上高野字八反地	散布地	弥生～中世	農道建設	豊中町
74	香西南・鬼無地区	高松市香西南町、鬼無町	集落跡	奈良、平安	高松港頭地区土地区画整理	香川県
75	林遺跡	高松市林町2040－1ほか	散布地	弥生、古墳	四国横断自動車道（高松市内区間）建設	道路公団
76	林下所遺跡	高松市林町2104－1ほか	集落跡	近世	県道中徳三谷高松線改良	香川県
77	川津井手の上遺跡	坂出市川津町井手の上	集落跡	弥生	国道438号線改良	香川県
78	下大橋・定兼遺跡	綾歌郡綾南町陶字下大橋、定兼	集落跡	弥生、中世	綾南第1中継ポンプ場建設	香川県
79	新田本村遺跡	高松市新田町595－3ほか	集落跡	奈良、平安	都市計画道路室町新田線	高松市
80	北原遺跡	綾歌郡綾歌町岡田東北原1156－2ほか	集落跡	奈良～中世	県営綾歌地区緊急農道建設	香川県
81	楠谷B地区	大川郡大内町水主5059ほか	散布地	平安	四国横断自動車道（津田～引田間）建設	道路公団
82	北ノ宮古墳 北山遺跡	綾歌郡綾歌町岡田西北山1462番地	集落跡 古墳	古墳、中世	団体営土地改良総合整備事業成顧寺地区	綾歌町
83	中谷遺跡	大川郡津田町鶴羽2405－1ほか	集落跡	中世	四国横断自動車道（津田～引田間）建設	道路公団
84	中間東井坪遺跡	高松市中間町中井坪502－1ほか	散布地	旧石器	四国横断自動車道（高松市内区間）建設	道路公団
85	西打遺跡	高松市香西南町、鬼無町	集落跡	弥生～中世	高松港頭地区土地区画整理	香川県
86	北原遺跡	綾歌郡綾歌町北原1178－3	集落跡	弥生	県営綾歌地区緊急農道建設	香川県
87	田中砂古遺跡	木田郡三木町田中1734	集落跡	弥生	県営ほ場整備	香川県
88	宮西・一角遺跡	高松市林町字宮西76－56ほか	散布地 集落跡	弥生	市道林町47号線改良	高松市
89	西長尾城跡	綾歌郡綾歌町岡田上国吉2312－10ほか	城館跡	中世	学術研究（測量調査）	綾歌町教委
90	竹元遺跡	高松市東植田町字竹元	集落跡	弥生	県道塩江屋島西線建設	香川県

対処	調査主体	面積	調査期間	担当者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	香川県教委	420	8．11．5 ～ 8．11．5	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	調査継続
試掘調査 事前調査	豊中町教委	3,000	8．11．28 ～ 9．2．28	豊中町教委 森　裕行	国・県・町	工事実施
事前調査	香川県教委	1,600	8．12．2 ～ 8．12．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	調査継続
事前調査	香川県教委	2,997	8．12．2 ～ 9．1．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	1,668	8．12．2 ～ 9．1．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	110	8．12．2 ～ 8．12．6	文化行政課 木下　晴一	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	200	8．12．2 ～ 8．12．9	文化行政課 塩崎　誠司	香川県	工事実施
事前調査	高松市教委	3,600	8．12．9 ～ 9．3．31	高松市教委 山元　敏裕	高松市	工事実施
事前調査	綾歌町教委	500	8．12．10 ～ 8．12．18	綾歌町教委 近藤　武司	県・町	工事実施
事前調査	香川県教委	462	8．12．10 ～ 8．12．18	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	調査継続
事前調査	綾歌町教委	300	8．12．21 ～ 8．12．28	綾歌町教委 近藤　武司	綾歌町	工事実施
事前調査	香川県教委	518	9．1．1 ～ 9．1．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	709	9．1．1 ～ 9．1．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	道路公団	工事実施
事前調査	香川県教委	2,000	9．1．1 ～ 9．1．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施
事前調査	香川県教委	120	8．12．19 ～ 8．12．20	文化行政課 塩崎　誠司	香川県	工事実施
事前調査	三木町教委	194	9．1．13 ～ 9．2．12	三木町教委 石井　健一	県・町	工事実施
事前調査	高松市教委	167	9．1．1 ～ 9．1．31	高松市教委 山本　英之	高松市	工事実施
測量調査	綾歌町教委	12,500	9．1．13 ～ 9．2．20	綾歌町教委 近藤　武司	国・県・町	現状保存
事前調査	香川県教委	430	9．2．3 ～ 9．3．31	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	香川県	工事実施

番号	名称	所在地	種類	時代	原因	原因者
91	原中村遺跡	木田郡牟礼町大字原字中村	集落跡	弥生、中世	県道高松志度線建設	香川県
92	藤尾城	高松市香西本町465	城館跡	中世、近世	急傾斜地崩壊防止工事	高松市
93	奥の坊権現前遺跡	高松市高松町1333ほか	散布地集落跡	弥生～中世	高松市東部運動公園（仮称）整備	高松市
94	西三谷地区（古代南海道推定地）	高松市三谷町1071番地	その他の遺跡	奈良	第2次弘福寺領田図調査事業	高松市教委
95	町代2号墳	仲多度郡満濃町大字長尾1915	古墳	古墳	農業基盤整備	満濃町
96	成重地区遺跡	大川郡白鳥町大字白鳥字成重	散布地	弥生	四国横断自動車道（津田～引田間）建設	道路公団
97	鬼無藤井遺跡香西南西打遺跡	高松市鬼無町59－1ほか	集落跡	平安、中世	市道鬼無町藤井12号線建設ほか	高松市
98	石田高校校庭内遺跡	大川郡寒川町石田東字風配甲1136他	集落跡	弥生～平安	宅地造成	個人
99	羽床城跡	綾歌郡綾南町大字羽床下448－2	城館跡	中世	学術研究	綾南町
100	陵遺跡	大川郡長尾町大字名字陵及び辻	集落跡	弥生～中世	宅地造成	県住宅供給公社

V　開発事業に伴う埋蔵文化財試掘調査（平成8年10月以降）

番号	名称	所在地	原因	原因者
1	沙弥千人塚遺跡	坂出市沙弥島南通り	国民文化祭記念事業	坂出市
2	多肥上地区	高松市多肥上町宮尻	県道太田上町志度線建設	香川県
3	高松城跡	高松市西の丸町	高松北警察署移転	香川県
4	宮奥池南地区	大川郡白鳥町字宮奥	県営ほ場整備	香川県
5	檀紙正箱地区	高松市檀紙町	四国横断自動車道関連整備	高松市
6	北原遺跡	綾歌郡綾歌町大字岡田東字北原	緊急農道建設（綾歌地区）	香川県
7	多肥上地区	高松市多肥上町松林	県道太田上町志度線建設	香川県
8	始覚寺跡	木田郡三木町字井上	農村活性化住環境整備	香川県
9	庵山遺跡隣接地区	仲多度郡琴南町造田	工場用地造成	中小企業
10	三木田中地区	木田郡三木町字田中	県営ほ場整備	香川県
11	奥の坊奥池西地区	高松市高松町奥の坊	東部運動公園（仮称）整備	高松市

対　処	調査主体	面　積	調査期間	担　当　者	費用負担	調査後の措置等
事前調査	香川県教委	200	9．2．24 ～ 9．2．28	文化行政課 塩崎　誠司	香　川　県	工事実施
事前調査	高松市教委	150	9．1．8 ～ 9．1．10	高松市教委 大嶋　和則	高　松　市	工事実施
事前調査	高松市教委	1,560	9．2．10 ～ 9．3．31	高松市教委 大嶋　和則	高　松　市	調査継続
確認調査	高松市教委	400	9．2．3 ～ 9．3．31	高松市教委 山本　英之	国・県・市	現状保存
事前調査	満濃町教委	100	9．3．3 ～ 9．3．31	片桐　節子	満濃町 ・個人	工事実施
事前調査	香川県教委	910	9．2．3 ～ 9．2．13	(財)香川県埋蔵文化財 調査センター	道路公団	調査継続
事前調査	高松市教委	850	9．2．3 ～ 9．3．31	高松市教委 山元　敏裕	高　松　市	工事実施
事前調査	寒川町教委	850	9．2．1 ～ 9．3．31	寒川町教委 山本　一伸	個　　人	工事実施
試掘調査	綾南町教委	20	9．2．5 ～ 9．2．14	松本　豊胤	綾　南　町	現状保存
事前調査	長尾町教委	5,000	8．4．6 ～ 9．1．26	大川広城 高畠　豊、阿河鋭二	長　尾　町	工事実施

調査主体	面　積	調　査　期　間	担　当　者	費用負担	調　査　の　結　果
坂出市教委	250	8．10．1～8．12．28	坂出市教委 今井　和彦	国・県・市	包蔵地確認 現状保存
香川県教委	80	8．10．3～8．10．4	文化行政課 木下　晴一	国・県	包蔵地確認 平9事前調査予定
香川県教委	40	8．10．9～8．10．10	文化行政課 塩崎　誠司	国・県	包蔵地確認 平9事前調査予定
香川県教委	110	8．10．14～8．10．15	文化行政課 塩崎　誠司	国・県	包蔵地確認されず
高松市教委	92	8．10．17	高松市教委 大嶋　和則	高　松　市	包蔵地確認されず
香川県教委	80	8．10．28	文化行政課 塩崎　誠司	国・県	包蔵地確認 事前調査
香川県教委	30	8．11．14～8．11．15	文化行政課 木下　晴一	国・県	包蔵地確認 平9事前調査予定
香川県教委	15	8．11．18	文化行政課 木下　晴一	国・県	包蔵地確認されず
琴南町教委	85	8．11．20	琴南町教委　藤原 文化行政課指導	琴南町 教委	包蔵地確認されず
香川県教委	110	8．11．21	文化行政課 木下　晴一	国・県	包蔵地確認されず
高松市教委	800	8．11．28～8．11．29	高松市教委 大嶋　和則	高　松　市	包蔵地確認協議中

番号	名　　称	所　在　地	原　因	原因者
12	大空北地区	高松市高松町奥の坊	東部運動公園（仮称）整備	高　松　市
13	南天枝地区	木田郡三木町大字田中	農地の地下げ	個　　人
14	天満地区	三豊郡宅間町字天満	県道紫雲出山線改良	香　川　県
15	宗吉瓦窯跡隣接地区	三豊郡三野町大字吉津字宗吉	資料館建設	三　野　町
16	鬼無藤井地区	高松市鬼無町藤井	高松港頭地区開発事業	高　松　市
17	香西南西打地区	高松市香西南町	高松港頭地区開発事業	高　松　市
18	花ノ宮地区	高松市花の宮町	女性総合センター建設	香　川　県
19	洲端道下地区	高松市木太町	市道福岡三谷線改良工事	高　松　市
20	木太上西原地区	高松市木太町上西原	中小河川宮川改修	香　川　県
21	佐古川・窪田地区	綾歌郡綾歌町字栗熊	国道32号綾歌バイパス建設	建　設　省
22	茶円原地区	綾歌郡綾南町茶円原	国道32号綾南バイパス建設	建　設　省
23	大手町地区	丸亀市大手町二丁目	丸亀保健福祉センター建設	丸　亀　市
24	林・下所地区	高松市木太町	四国横断自動車道関連整備	高　松　市
25	林・地区	高松市林町1443－１ほか	四国横断自動車道関連整備	高　松　市
26	坂本地区	大川郡引田町坂本	町道小坂大谷線改良	引　田　町
27	高松城跡	高松市西の丸町	高松港頭地区開発j事業	香　川　県
28	小海地区	大川郡引田町小海	県道白鳥引田線建設	香　川　県
29	川東地区	大川郡大内町川東	県道大内白鳥インター線建設	香　川　県
30	中府地区	丸亀市中府町５丁目	城乾小学校改修	丸　亀　市

Ⅵ　平成８年度埋蔵文化財現地踏査・立会調査の概況

番号	位　　置	原　　因	事業主体	事業面積	調査内容
1	綾歌郡綾南町羽床	中講流域下水道工事	県下水道課	40㎡	立会調査
2	木田郡三木町鉿角	渡池改篋工事	中四国農政局	未定	分布調査
3	坂出市高屋町	県道鴨停五色台線改良	県道路建設課	250㎡	立会調査
4	高松市松並町	都市計画道路錦町国分寺綾南線改良	県都市計画課	800㎡	立会調査
5	小豆郡土庄町	富丘八幡玉垣改修	個人	14㎡	立会調査
6	善通寺市文京町	善通寺西高校冷房施設建設	県高校教育課	20㎡	立会調査
7	小豆郡土庄町～内海町	安田大川改修ほか	県砂防課ほか	700㎡他	分布調査

調査主体	面積	調査期間	担当者	費用負担	調査の結果
高松市教委	800	8．12．2～8．12．4	高松市教委 大嶋 和則	高松市	包蔵地確認協議中
三木町教委	54	8．12．11	三木町教委 石井 健一	三木町教委	包蔵地確認事前調査
香川県教委	120	8．12．11～8．12．13	文化行政課 塩崎 誠司	国・県	包蔵地確認されず
三野町教委	87	8．12．11～9．3．17	三野町教委 白川 文化行政課指導	国・県・町	包蔵地確認 現状保存
高松市教委	1.155	8．12．11～9．3．31	高松市教委 山元 敏裕	高松市	包蔵地確認事前調査
高松市教委	593	9．1．8～9．2．8	高松市教委 山元 敏裕	高松市	包蔵地確認事前調査
香川県教委	70	9．1．27～9．1．28	文化行政課 木下 晴一	香川県	包蔵地確認されず
高松市教委	120	9．1．28～9．2．8	高松市教委 大嶋 和則	国・県・市	包蔵地確認されず
香川県教委	90	9．1．30～9．1．31	文化行政課 木下 晴一	国・県	包蔵地確認事前調査
香川県教委	180	9．1．30～9．1．31	文化行政課 塩崎 誠司	香川県教委	包蔵地確認平9事前調査予定
香川県教委	90	9．2．13～9．2．14	文化行政課 木下 晴一	香川県教委	包蔵地確認されず
丸亀市教委	30	9．2．17～9．2．18	丸亀市教委 東 信男	丸亀市	包蔵地確認協議中
高松市教委	372	9．2．26～9．3．3	高松市教委 山本 英之	高松市	包蔵地確認事前調査
高松市教委	106	9．2．28～9．3．3	高松市教委 山本 英之	高松市	包蔵地確認事前調査
引田町教委	70	9．3．3～9．3．5	大川広域事務組合 萬木 一郎	引田町	包蔵地確認されず
香川県教委	60	9．3．6	文化行政課 塩崎 誠司	香川県教委	包蔵地確認平9事前調査予定
香川県教委	15	9．3．11	文化行政課 木下 晴一	香川県教委	包蔵地確認されず
香川県教委	60	9．3．26～9．3．28	文化行政課 木下 晴一	香川県教委	包蔵地確認されず
丸亀市教委	13	9．3．31	丸亀市教委 東 信男	丸亀市	包蔵地確認されず

調査の原因	調査主体担当	調査期間	調査結果の概要
旧渡池堤防に隣接	県教委 塩崎	8．4．17	包蔵地確認されず。
蛇角古墳群に隣接	県教委 木下	8．4．18	古墳状のマウンドを確認。事業未実施。
高屋城に隣接	県教委 木下	8．4．25	包蔵地確認されず。
松並・中所遺跡に隣接	県教委 塩崎	8．5．7	包蔵地確認されず。
県史跡富丘古墳群に隣接	県教委 木下	8．5．8	包蔵地確認されず。
生野本町遺跡に隣接	県教委 塩崎	8．5．10	包蔵地確認されず。
極ケ谷遺跡に隣接ほか	県教委 塩崎	8．5．11	工事中の立会の必要な範囲を指示ほか。

番号	位置	原因	事業主体	事業面積	調査内容
8	大川郡白鳥町成重	県営ほ場整備事業（白鳥上地区）	県土地改良課	100㎡	立会調査
9	綾歌郡国分寺町新居	福乗寺池改修	県土地改良課	800㎡	分布調査
10	綾歌郡綾上町西分	産業廃棄物埋立処分場設置	財香川県環境保全公社	156,000㎡	分布調査
11	綾歌郡綾南町羽床	中讃流域下水道工事	県下水道課	40㎡	立会調査
12	高松市西の丸町	高松港頭地区土地区画整理事業	県高松港頭地区開発局	20㎡	立会調査
13	綾歌郡綾南町滝宮	中讃流域下水道工事	県下水道課	40㎡	立会調査
14	綾歌郡綾歌町栗熊	中讃流域下水道工事	県下水道課	40㎡	立会調査
15	坂出市神谷町	県道鴨停五色台線改良	県道路建設課	100㎡	立会調査
16	高松市新田町	県道塩江屋島西線道路改良	県道路建設課	60㎡	立会調査
17	綾歌郡綾南町羽床	中讃流域下水道工事	県下水道課	40㎡	立会調査
18	高松市女木町	瀬戸内海国立公園女木島園地整備	県環境・土地政策課	680㎡	分布調査
19	多度津町東白方	県道丸亀詫間豊浜線改修	県道路建設課	300㎡	立会調査
20	多度津町東白方	県道丸亀詫間豊浜線改修	県道路建設課	1,500㎡	立会調査
21	三豊郡仁尾町江尻	江尻川改修ほか	県河川課ほか	3,600㎡	分布調査
22	大川郡白鳥町久詰	復旧治山事業	県林務課	600㎡	立会調査
23	木田郡三木町田中	県営ほ場整備事業（東田中地区）	県土地改良課	25,000㎡	分布調査
24	高松市林町	香川インテリジェントパーク利便性向上施設建設	県プロジェクト推進総室	620㎡	立会調査
25	綾歌郡国分寺町新居	福乗寺池改修	県土地改良課	800㎡	立会調査
26	坂出市川津町	国道438号線改良	県道路建設課	70㎡	立会調査
27	綾歌郡綾南町菅原	ポンプ場建設	県下水道課	200㎡	立会調査
28	三豊郡山本町上河内	県道辻野観音寺線改良	県道路建設課	500㎡	立会調査
29	三豊郡三野町宮谷	皿池改修	県土地改良課	500㎡	立会調査
30	坂出市府中町	城山調整池付帯（砂防ダム）工事	県水道局	500㎡	分布調査
31	綾歌郡飯山町下法軍寺	大束川河岸改修	県河川課	35㎡	立会調査
32	木田郡三木町田中	長尾断層調査	県消防防災課	100㎡	立会調査
33	善通寺市仙遊町	国立善通寺病院総合汚水処理施設解体	国立善通寺病院	30㎡	立会調査
34	坂出市府中町	府中湖自転車道建設	県道路保全課	600㎡	立会調査
35	丸亀市本島町小阪	復旧治山事業	県林務課	900㎡	立会調査
36	坂出市府中町	城山調整池建設工事	県水道局	28,000㎡	立会調査

調査の原因	調査主体担当	調査期間	調査結果の概要
塚状のマウンドが所在	県教委　塩崎	8．5．22	開墾時の不要な石を集めたものと判明。
古代寺院福乗寺跡が所在	県教委　塩崎	8．5．24	古瓦片が散布。有無確認調査が必要。
事業面積が広大	県教委　木下	8．5．27	包蔵地確認されず。
旧渡池堤防に隣接	県教委　塩崎	8．5．28	中世土器細片少量出土。
高松城西外曲輪	県教委　木下	8．5．29	包蔵地確認されず。
滝宮城跡に隣接	県教委　塩崎	8．5．30	包蔵地確認されず。
行末遺跡に隣接	県教委　塩崎	8．6．10	包蔵地確認されず。
牛子山遺跡に隣接	県教委　木下	8．6．19	包蔵地確認されず。
小山・南谷遺跡に隣接	県教委　木下	8．6．25	包蔵地確認されず。
遺跡の所在する可能性有	県教委　木下	8．6．28	包蔵地確認されず。
鷲ガ峰古墳に隣接	県教委　木下	8．7．2	包蔵地確認されず。
事業面積が広大	県教委　木下	8．7．11	包蔵地確認されず。
事業面積が広大	県教委　木下	8．7．31	包蔵地確認されず。
事業面積が広大	県教委　塩崎	8．8．13	有無確認調査の必要な範囲を指示ほか。
田の口池奥遺跡に隣接	県教委　塩崎	8．8．19	包蔵地確認されず。
事業面積が広大	県教委　木下	8．9．18	包蔵地確認されず。
空港跡地遺跡内	県教委　木下	8．9．20	仮設水路が遺構面に達さないことを確認。
古代寺院福乗寺跡が所在	県教委　塩崎	8．11．1	包蔵地確認されず。
遺跡の所在する可能性有	県教委　塩崎	8．11．7	包蔵地確認されず。
丸子塚古墳に隣接	県教委　塩崎	8．11．21	包蔵地確認されず。
遺跡の所在する可能性有	県教委　塩崎	8．12．13	包蔵地確認されず。
皿池遺跡に隣接	県教委　木下	8．11．26	包蔵地確認されず。
弘法寺跡に隣接	県教委　木下	8．12．17	包蔵地確認されず。
法勲寺跡に隣接	県教委　木下	9．1．14	包蔵地確認されず。
田中南原遺跡に隣接	県教委　塩崎	9．1．22	包蔵地確認されず。
旧練兵場遺跡内	県教委　木下	9．1．23	包蔵地確認されず。
窯跡が所在する可能性有	県教委　塩崎	9．1．27	包蔵地確認されず。
小阪３号墳に隣接	県教委　塩崎	9．2．19	包蔵地確認されず。
事業面積が広大	県教委　木下	9．2．19	包蔵地確認されず。

古江善光寺遺跡

1．所 在 地　三豊郡仁尾町大字古江字川尻
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年６月26日
4．調査面積　約80㎡
5．調査担当者　文化行政課　塩崎誠司
6．調査の原因　県道詫間仁尾線整備
7．調査結果の概要

調査地は三方を山、一方を海で囲まれた仁尾平野の最北部に位置する。微地形的にみると北側の山塊から南に向かって長く派生する低丘陵突端付近の緩傾斜地である。調査地の北側では弥生時代の壺棺の出土が知られ、また言い伝えによると丘陵頂部においても同様の壺棺の出土が伝えられており広範囲に遺跡が広がる可能性が考えられる。

第１図　遺跡の位置（「仁尾」）

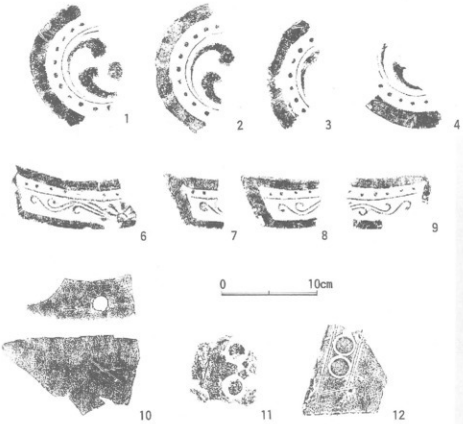
調査の結果、現地表下約70cm程で平窯跡の一部を検出した。窯跡内からは須恵器片、瓦片がごく少量出土しているが、窯跡直上層に多量の瓦片が含まれており、瓦を中心に焼成を行ったと推測される。また、窯跡の西側はかつての農道建設時の切り下げにより急傾斜となっているが、この傾斜部からコンテナ25箱分に及ぶ大量の瓦片が出土している。僅かに出土した土器及び軒丸瓦・軒平瓦の形態から15～16世紀の所産と考えられる。しかしながらこの瓦溜りは、明らかに近世に下る瓦片や18世紀代の土器片も少量混入しており土層の堆積状況から判断しても農道造成時の大きな地形改変により前述した窯跡とは遊離し、二次堆積した状態での出土と判断される。

8．まとめ

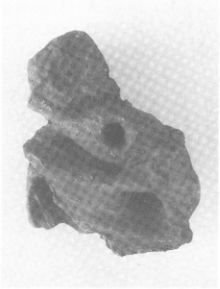
この地に古くから「善光寺さん」と呼ばれる寺があったという言い伝え及び「善光寺」という通称地名が残っていることを考えると、今回の調査で出土した遺構・遺物は当地に所在したであろう中世寺院「善光寺」と深く関係するものである可能性が高い。また、この地がかつては海に面した半島状の地形で、中世～近世にかけて栄えた仁尾の町並み及び燧灘を一望できる好地であったことも中世寺院の立地に最適であったと思われる。　（塩崎）

第２図　調査地近景

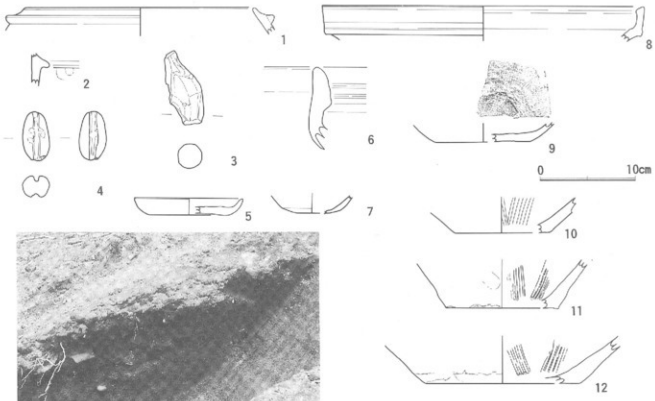
第３図　窯跡検出状況



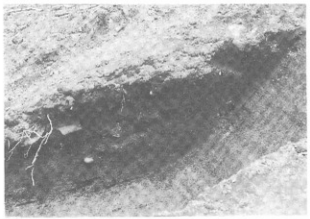
第４図　出土瓦拓影（１～５軒丸瓦、６～９軒平瓦、10刻印をもつ丸瓦、11～12鬼瓦片）



第５図　出土鬼瓦



第７図　出土土器実測図（１～５、10～12土師質、６～９陶質）



第６図　瓦片包含状況（二次推積斜面）

池ノ下遺跡

1．所 在 地　丸亀市飯野町東分
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年10月７日～21日
4．調査面積　280㎡
5．調査担当者　文化行政課　木下晴一
6．調査の原因　県道飯野宇多津線
　　ふるさとづくり道路整備事業
7．調査結果の概要

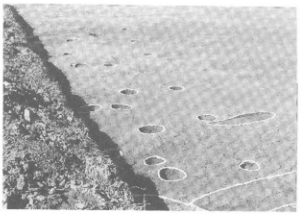
調査地は飯野山の北麓に位置する。県道拡幅に伴い最大幅11m・延長約40mの調査範囲において、中世後半の掘立柱建物跡１棟、溝状遺構７条ほかと28㎏入りコンテナ５箱の遺物を検出した。このうち、ＳＤ07は周辺の条里型地割の方向に合致する幅1.6m・深さ0.5m程で中世後半の土器を多く包含していた。詳細は報告書を参照されたい。　（木下）

第１図　調査位置図（１/５万「丸亀」）
Ａ：池ノ下遺跡　Ｂ：川津井手の上遺跡

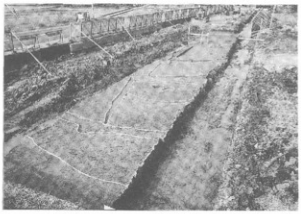
川津井手の上遺跡

1．所 在 地　坂出市川津町253
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年12月２日～６日
4．調査面積　110㎡
5．調査担当者　文化行政課　木下晴一
6．調査の原因　国道438号線道路改良
7．調査結果の概要

調査地は飯野山北東麓に位置する。本事業地周辺については、平成８年度当初に試掘調査を行った結果、遺構・遺物ともに希薄であったために文化財保護法に基づく保護措置不要の判断をしていたが、試掘調査時に未退去であった家屋の下から削平を免れて遺構・遺物が検出されたため、事業者の理解のもとに緊急調査を行ったものである。調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居跡１棟のほか小溝10余条および28㎏入りコンテナ１箱の遺物を検出した。詳細は報告書を参照されたい。　（木下）



第２図　池ノ下遺跡　調査状況



第３図　川津井手の上遺跡　調査状況

川津六反地Ⅱ（仮称）遺跡

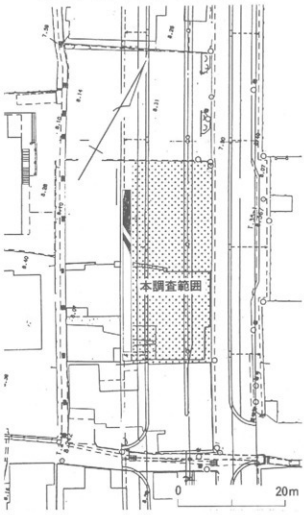
1．所 在 地　坂出市川津町4941－4ほか
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成9年3月12日
4．調査面積　46㎡
5．調査担当者　文化行政課　木下晴一
6．調査の原因　国道438号線道路改良
7．調査結果の概要

国道438号線の道路拡幅工事は、四国横断自動車道路以北において暫時進められている。県教委では用地買収がまとまった範囲を中心に試掘調査を行っているが、宅地の移転などにより官民境界工事が先行する小面積の場所については、工事立会を行うことにより対応している。ここで報告する地点からは、弥生時代と推定される溝状遺構1条と旧河道の西肩が検出された。溝状遺構は幅1m、深さ20cm程の規模で、旧河道に沿うように流れている。埋土は暗灰色粘質土、弥生土器と推定される土器細片が出土している。旧河道は西肩付近を検出し、巨視的には北流し、他からの旧河道と合流しながら北方に所在する下川津遺跡の東部の旧河道に連続すると判断される。埋土は暗灰色小礫混じり砂質土で、石器の破片、弥生土器細片が出土した。

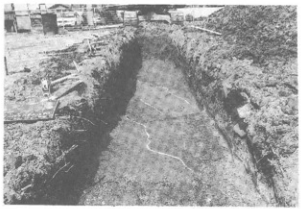
8．まとめ

以上のことから道路本体部分については工事実施前に本調査が必要と判断し、暫定的に「川津六反地Ⅱ遺跡」と呼称することとし、周辺の状況が確認された段階で遺跡名を確定することとした。　（木下）

第1図　調査位置図（「丸亀」）

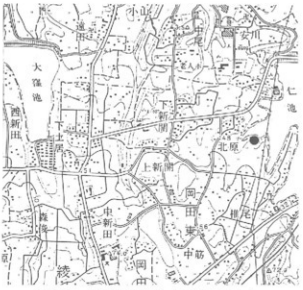


第3図　遺構配置略図


第2図　遺構検出状況

椎尾遺跡

1．所在地　綾歌郡綾歌町大字北原字椎尾
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年12月19日～20日
4．調査面積　約100㎡
5．調査担当者　文化行政課　塩崎誠司
6．調査の原因　県営緊急単独農道(綾歌地区)
7．調査結果の概要



第１図　遺跡の位置（「善通寺」）

調査地は、飯山町と綾歌町の境界となっている仁池の南岸に位置し、標記事業実施中に遺構が発見されたため急遽事前調査を実施した。検出した遺構は弥生時代後期の竪穴住居２棟である。

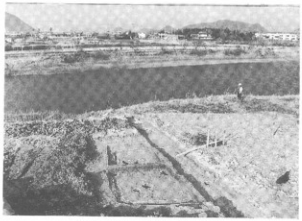
ＳＨ－01は北東側が調査区外へ伸びるが、１辺約4.5m×４m以上の方形住居である。埋土上層からは奈良時代の須恵器片が出土しているものの床面直上で出土した土器は弥生時代終末期の様相を示す。主柱穴は第５図のＰ１～５が相当し４主柱構造である。Ｐ４・５はその配置状況から建替えによるものと考えられる。また、炉跡（Ｋ－１）はほぼ住居中央に位置する。

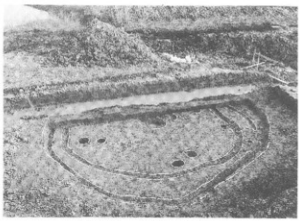
ＳＨ－02はＳＨ－01の約20m南で検出され、同様に住居の約１／３が調査区外へ伸びるため断定はできないが、直径７m強の円形もしくは多角形住居と推定される。残存深は約30cmを測り主柱穴は第６図のＰ１～５が相当し、４～５主柱構造と考えられる。炉跡（Ｋ－１）は下川津遺跡等で比較的多くみられる柱穴型炉で住居ほぼ中央に位置する。Ｋ２は灰溜め土坑である。周溝は二重に配されるが、主柱穴の検出状況及び住居内埋土の堆積状況から住居の拡張に伴うものである可能性が高い。

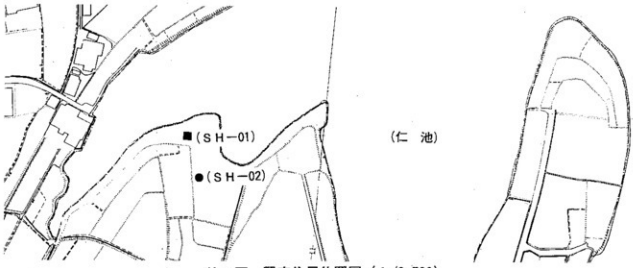
8．まとめ

調査は発見された遺構のみの調査であったため、当該期の集落が周辺に広がっている可能性が高い。また現状では夏期には水没してしまう傾斜地に集落が形成されたことは、南及び西に広がる綾歌台地よりもむしろ、現在仁池となっている谷地形及びさらに北に広がる綾歌平野を意識した集落形成が想定されよう。

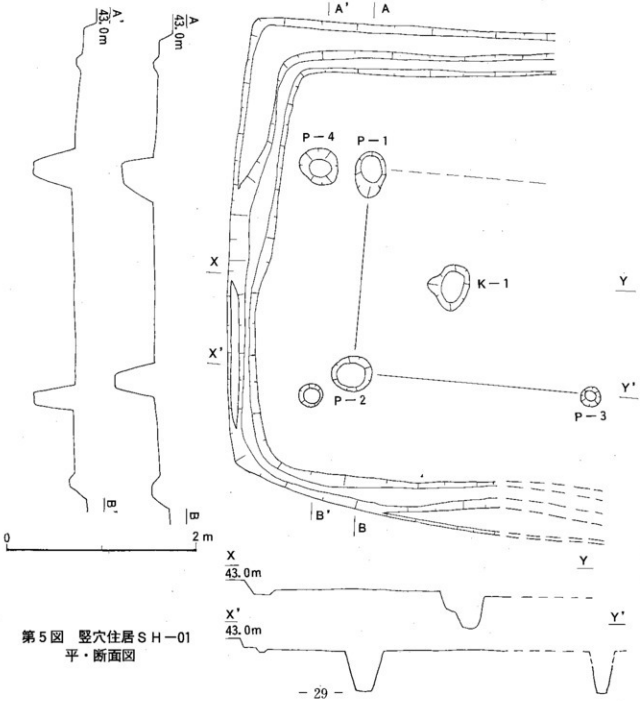
（塩崎）


第２図　ＳＨ－01全景

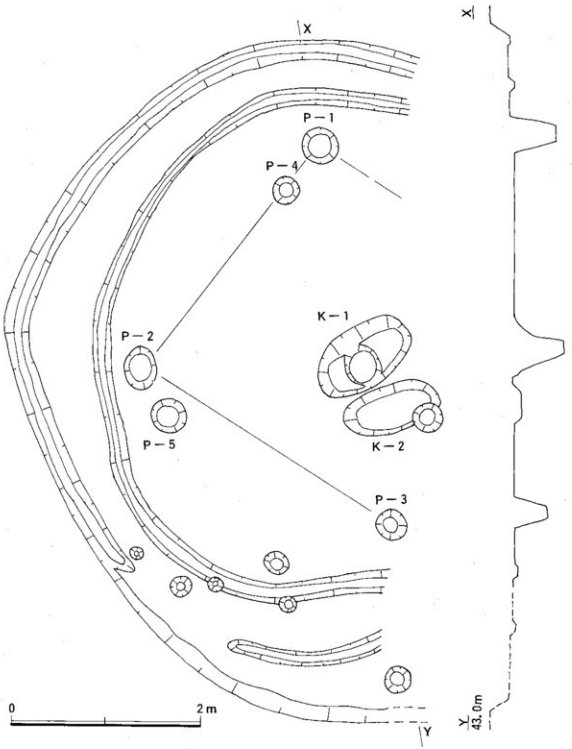

第３図　ＳＨ－02全景



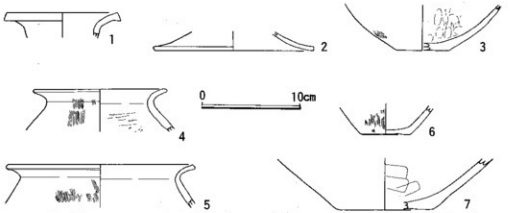
第４図　竪穴住居位置図（１/2,500）



第５図　竪穴住居ＳＨ－01
平・断面図



第6図　竪穴住ＳＨ－02平・断面図



第7図　ＳＨ－02出土遺物（1～3埋土　4～7　Ｋ－1より出土）

下大橋（しもおおはし）・定兼（さだかね）遺跡

1．所 在 地　綾歌郡綾南町大字陶
　　字下大橋及び定兼
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年12月３日～12月９日
4．調査面積　約200㎡
5．調査担当者　文化行政課　塩崎誠司
6．調査の原因　綾南第１中継ポンプ場建設
7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置（「滝宮」）

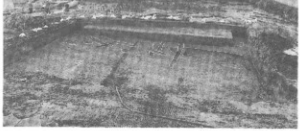
調査地は、西村遺跡が所在する丘陵の南側裾部に位置し、同遺跡との比高差は約10m程を有する。調査地の南側は富川が流れ北条池との合流地点ともなっている。この北条池（富川）と調査地との比高差は、僅かに2.5mほどである。

調査の結果、弥生時代中期後半及び中世後半期の２面の遺構面を検出し、その間には平安時代（９世紀）を中心とする土器包含層が堆積している状況が確認された。中世後半期の遺構は幅1.6mの溝１条が検出されており東西方向にほぼ直線に走る。弥生時代中期後半期の遺構は溝、土坑、流路等を検出し、特に流路からは多量の弥生土器片、石器片が出土している。遺構面は調査地の北側で黄灰褐色砂質土層、南側で灰色砂層をベースに掘り込まれており、検出された溝は当該期の水田等に伴う遺構の可能性も考えられる。

8．まとめ

今回の調査により、現在北条池となっている狭い谷地形を利用した弥生時代の集落が所在することが明らかになった。調査地で検出した遺構は集落からの収排水溝か水田に伴うものである可能性が高いが、出土土器は摩滅を受けておらず、調査地の北側に隣接して集落が所在したものと考えられる。綾南町内で現在までのところ弥生時代の遺跡及び資料は断片的にしか知られておらず、当該期の集落立地を考えるうえでも今回得られた資料は重要な意義を持つと考えられる。

（塩崎）


第２図　調査地全景

第３図　流路跡（断面）

平木（ひらぎ）１・４号墳

１．所 在 地　高松市鬼無町佐藤1087番地他
２．調査主体　香川県教育委員会
３．調査期間　平成８年６月～９月
４．調査面積　約200㎡（平木４号墳）
５．調査担当者　文化行政課　塩崎誠司
６．調査の原因　高松西高校第２体育館建設
７．調査結果の概要

平木１号墳は全長約11m程の横穴式石室を持つ県下でも有数の巨石墳である。標記事業に伴い平成７年度には試掘調査を実施し、墳丘・周溝等の規模をほぼ明らかにした。今年度は学校内で保存整備される県下初の例として保存整備事業を実施した。主な内容は亀裂の入った天井石の取り替え及び墳丘・周溝等の復元である。

第１図　遺跡の位置（「白峰山」）

一方、標記事業に伴う工事中に平木１号墳の北東約40mの地点で１基の古墳が新たに発見されたため平木４号墳と命名し、急遽事前調査を実施した。調査の結果、同古墳は残存長4.7m程の横穴式石室を持つ直径約11m程の小規模な円墳で、段々畑造成時の削平により石室は基底部しか残存しておらず、周溝も山側で約半周を残すのみであった。出土遺物は須恵器坏、高坏、土師椀、鉄鏃等が出土しており古墳時代末期にあたる７世紀中葉の築造と考えられる。

８．まとめ

１号墳については、石室天井石の巨大な亀裂のため石室の崩壊が危惧されていたが、保存整備事業によりその危険が解消されただけでなく、学校内に保存されることにより「生きた教材」としての幅広い活用も可能となった。

一方、平木４号墳の発見は残りが非常に悪かったものの、７世紀初頭の築造と考えられる１号墳の被葬者の系譜を受け継ぐ古墳として重要な位置を占めるものと考えられる。現在、２号墳、３号墳の実態は不明な点が多いが、以上４基の古墳が一連の系譜を持つ有力豪族により築造された可能性が高い。

（塩崎）

第２図　整備後の平木１号墳

第３図　平木４号墳全景

史跡天然記念物　屋島

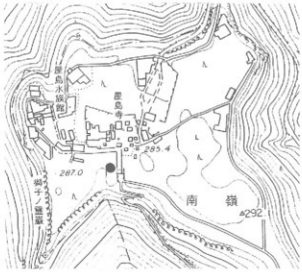
1．所 在 地　高松市屋島町1804
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年７月15日
4．調査面積　31.5㎡
5．調査担当者　文化行政課　木下晴一
6．調査の原因　屋島南嶺園地整備に伴う試掘調査
7．調査結果の概要

屋島は教科書的な「メサ」地形として、平坦な山頂面と急傾斜の斜面からなる独特の山容を呈している。また、山上は古代山城や屋島寺、源平合戦の跡など史跡も多く、国の史跡・天然記念物に指定されている。山上地区における現状変更を伴う事業については、県・市の教育委員会により試掘、立会調査を行っているが、今年度、南嶺地区における県の園地整備事業に伴い試掘調査を実施した。

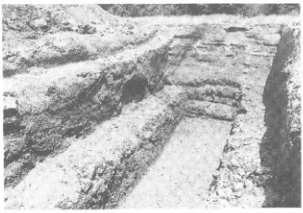
試掘個所は、屋島寺仁王門の北西側で、仁王門から本堂に向かう参道より約2.3mほど高い広場である。この東南隅のトイレ建設予定地にトレンチを設定した。なお、仁王門の東側には詳細不明であるが、上端幅約８m深さ１mの断面皿状で直線的に30m程続く空堀状の遺構がある。

調査の結果、調査地付近は厚く盛り土されており、1.7mの深さまで花崗土、以下70cmの深さまでガラスビン片を含む撹乱土が堆積していた。高松市作成の縮尺１／2,500の都市計画図によると広場は浅い谷を埋め立てて造成されており、今回検出した地山面は東方から緩やかに下る谷斜面を検出したことになる。地盤は赤茶色シルト質土で、調査範囲において遺構・遺物は認められなかった。　（木下）

第１図　調査位置図（「高松北部」）



第２図　調査位置図（１/10,000）


第３図　トレンチ掘削状況（屋島）

小山（こやま）・南谷（みなみだに）遺跡、原中村（はらなかむら）遺跡

1．所 在 地　高松市新田町
　　木田郡牟礼町大字原字中村
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年７月２日～７月５日
　　平成９年２月24日～２月28日
4．調査面積　約 90㎡
　　約200㎡
5．調査担当者　文化行政課　塩崎誠司
6．調査の原因　県道高松志度線建設
7．調査結果の概要

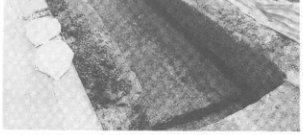
第１図　遺跡の位置（「高松南部」、「志度」）

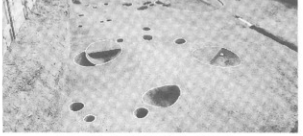
小山・南谷遺跡は、高松市新田町の新田街道沿いから東側山麓一帯で確認された、縄文時代～中世に至る複合遺跡である。今回の調査地は高松志度線（バイパス）と新田街道の交差点西側拡張部で東側では古代の条理制に伴う東西方向の大溝が検出されており、古代の条理制と集落立地を考えるうえでの貴重な資料が得られている。今回の調査で特筆されることは、南北方向の大溝の肩部を検出したことである。溝の大半は現新田街道に下に潜り込むものとおもわれるが、従来考えられていたように新田街道沿に坪界の溝と推定される大溝の痕跡が確認されたことの意義は大きい。溝からは平安時代前半期の土器がごく少量出土している。

原中村遺跡は、県内弥生時代後期後半期の指標となる一括土器が出土した「原遺跡」の北側一帯に広がる遺跡で、近年の調査により弥生時代の集落跡が検出され、弥生時代における当該地域の実態が次第に明らかになってきている。今回の調査地は南側から張り出す低丘陵上で現状は宅地及び水田でる。耕作土下20～30㎝程で中世末～近世にかけての柱穴跡等を多数検出している。遺構面ベース層からは僅かではあるが弥生土器片が出土しており、本来弥生時代の集落が所在したが、田地造成等に伴い失われ、近世段階に再び集落が形成されたと推定される。

8．まとめ

両遺跡は、標記事業に伴い確認された代表的な遺跡で、その遺跡範囲も広範囲に広がる可能性があり、今後の周辺部の開発には注意が必要であろう。　（塩崎）


第２図　小山・南谷遺跡（溝検出状況）


第３図　原中村遺跡（全景）

鹿伏・中所遺跡

1．所 在 地　木田郡三木町鹿伏
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年８月12日～９月９日
4．調査面積　160㎡
5．調査担当者　文化行政課　木下晴一
6．調査の原因　県立三木高校自転車置き場新設
7．調査結果の概要とまとめ

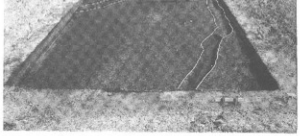
第１図　調査位置図（「志度」）

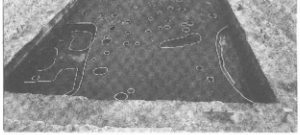
当遺跡は、弥生時代中期から古墳時代前期の集落遺跡である。県立三木高校新設に伴い平成６、７年度に㈶香川県埋蔵文化財調査センターにより約15,000㎡の調査が行われ、竪穴住居跡約70棟、掘立柱建物跡約20棟などが検出されている。その後自転車置き場の建設が計画され、平成８年度に調査を実施した。

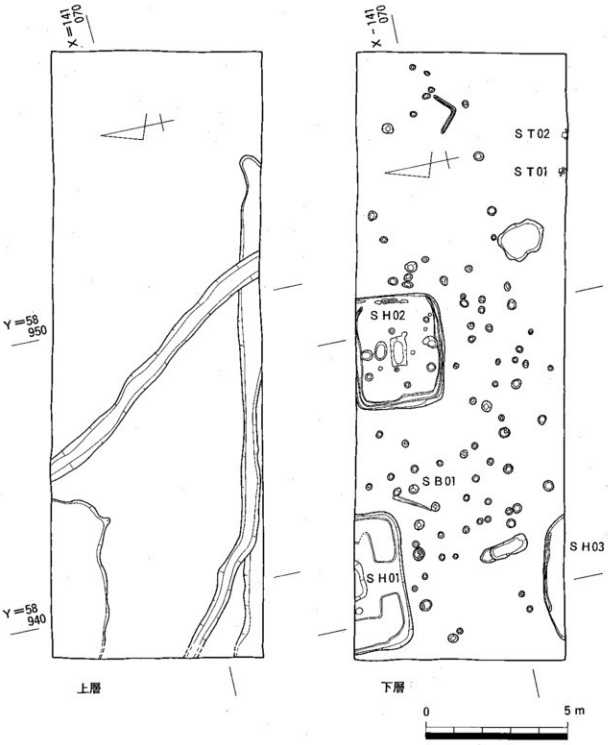
調査の結果、２面の遺構面を検出した。上層遺構は溝状遺構２条、下層は竪穴住居３棟、掘立柱建物１棟、土器棺墓２基、土坑２基、柱穴多数である。遺物は弥生土器、土師器及び石器で、28リットル入りコンテナ８箱分が出土した。上層の溝状遺構は、幅約0.6m、深さ約15㎝（ＳＤ01）と幅約0.8m、深さ約25㎝（ＳＤ02）の２条で、切り合っている。出土遺物は弥生土器の細片若干であるが、遺構面にも同時期の遺物が含まれており、時期不明である。上層と下層遺構面の間には厚さ約40㎝の遺物包含層が堆積する。下層の竪穴住居のうち、ＳＨ03は円形と考えられるが、一部を検出したのみである。ＳＨ01は、隅丸方形で北半分は調査区外に延びる。壁溝、盛り土によって造られたベッド状遺構が巡る。中央部から炉跡が検出された。ＳＨ02は約4.0×3.2mの隅丸長方形を呈する。埋土中に炭化材、炭化物を多く含んでおり焼失家屋と考えられる。四周に壁溝が巡り、中央部に炉跡を検出した。ＳＨ01、02ともに埋土及び床面直上の遺物は僅かであった。

今回の調査内容は、これまでに知られる調査成果と変わる所はないが、当遺跡は周辺地域における拠点的な集落遺跡でもあり、小規模な開発事業でも適切な保護措置を図る必要があろう。

（木下）


第２図　上層遺構掘削状況


第３図　下層遺構掘削状況


X=141 070
X=141 070
Y=58 950
Y=58 940
S T02
S T01
S H02
S B01
S H03
S H01
上層
下層
0
5 m

第4図　遺構配置図

石田高校校庭内遺跡

1．所 在 地　大川郡寒川町大字石田字東原甲
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年11月26日
4．調査面積　約20㎡
5．調査担当者　文化行政課　塩崎誠司
6．調査の原因　県立石田高校冷房施設設置
7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置（「志度」）

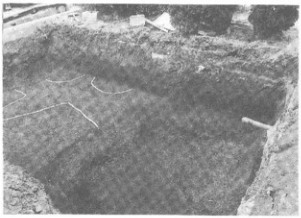
調査地は、県立石田高校内、北棟の北側に所在する保健室等が所在する校舎に北接し、運動場の西側に位置する。同遺跡は隣接する森広遺跡や加藤遺跡と共に東讃地区を代表する弥生時代の集落遺跡として知られる。

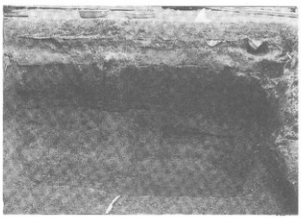
調査の結果、現地表下約１ｍ程下に黒褐色砂質土層（弥生土器・須恵器及び土師器を含む）が厚さ20㎝程度にわたって堆積しており、直下に淡黄褐色砂質土層をベースとして遺構面が形成されている。検出した遺構は既に工事により損壊を受けた範囲を含めて、竪穴住居跡１棟、竪穴住居状遺構２棟、柱穴跡２基である。調査面積が僅かであったため、いずれもその詳細な規模を把握することはできなかったが、竪穴住居の平面形はいずれも方形と推定されることや出土土器の形態から弥生時代後期後半～終末期の所産と思われる。また柱穴跡については径約１ｍ程と巨大で大型の掘建柱建物を形成した可能性が考えられる。また、特記事項として、遺構面直上で青銅器細片が出土している。２ミリ程度の細片で器種の特定は不可能である。

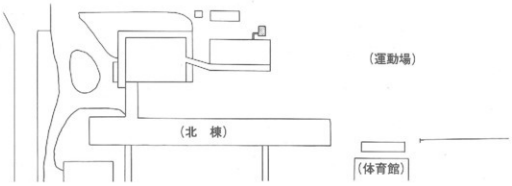
8．まとめ

調査の結果から判断して、調査地が弥生時代時代後期の大規模集落の範囲内に含まれることが判明した。周辺部では、近年大規模な調査が行われているものの、時期ごとの集落の展開については以前として不明な点が多い。今後、小規模な開発行為にも適切な保護措置を図り資料を蓄積する必要があろう。

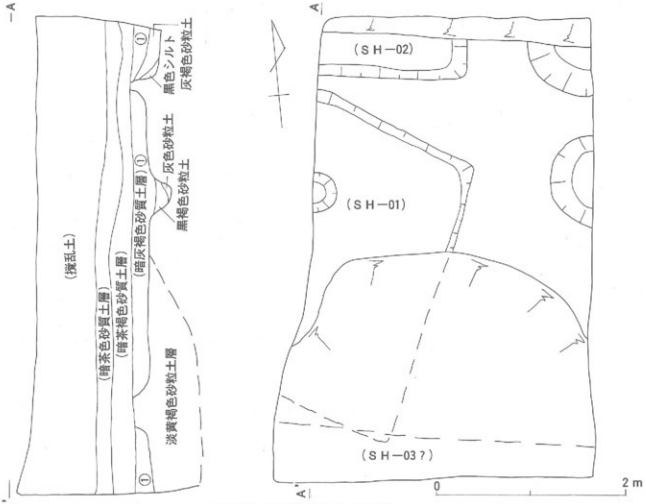
（塩崎）


第２図　遺構検出状況

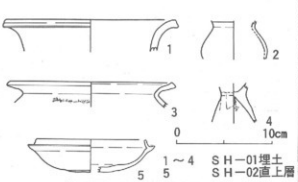

第３図　土層断面（南側）



第４図　調査地位置図　　…調査地



第５図　遺構配置図・土層図



第６図　出土遺物実測図

第７図　遺構完掘状況

金毘羅山遺跡

1．所 在 地　大川郡大内町大字水主字下屋敷
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年６月24日
4．調査面積　約100㎡
5．調査担当者　文化行政課　塩崎誠司
6．調査の原因　県営ほ場整備事業
（下屋敷地区）
7．調査結果の概要

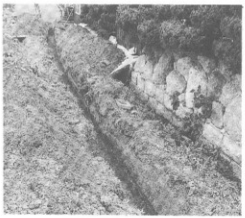
第１図　遺跡の位置（「三本松」）

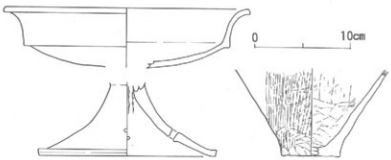
調査地は、与田川中流域で、西岸に所在する独立丘陵金比羅山と同川に挟まれた地点である。丘陵上には、弥生時代の墳墓等が所在することが以前から知られていたが、標記事業に伴い実施された試掘調査の結果、丘陵東側裾部を中心に弥生時代後期～古墳時代初頭及び中世期の集落跡が広範囲に広がることが判明した。今回の調査は標記事業に伴う給水管埋設工事が高速道路建設予定地内で行われる範囲について立会調査をおこなったものである。

調査の結果、耕作土下約40～50cm程で暗灰褐色砂粒土層の厚い堆積がみられ、弥生時代後期段階の土器が比較的多量に出土している。遺構については、工事の性格上掘削幅が狭く把握が困難であったが、隣接する調査地の状況から考えて遺構面は工事による掘削のさらに下に所在するものと考えられる。

8．まとめ

今回の調査は立会形式の調査であったので遺跡の範囲・遺構の状況等についての良好な資料は得られなかった。しかしながら、弥生時代後期の土器の出土量には目を見張るものがあり、当該期の大集落が所在していた可能性が高い。現在までの調査結果により、遺跡の西側についてはほぼその範囲が限定できるが、東側については与田川に至るまでどの程度集落が広がるのか、今後の調査が期待される。また一方で、今回調査地の隣接地で実施された調査では縄文時代晩期の凸帯文土器が僅かながら出土しており、丘陵裾部で検出された中世の遺構面同様に、遺構が複数面存在する箇所もあり、今後注意を要する。　（塩崎）


第２図　立会調査状況



第３図　出土遺物実測図

樋端廃寺

1．所 在 地　大川郡白鳥町白鳥字寺前
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年４月11日
4．調査面積　約100㎡
5．調査担当者　文化行政課　塩崎誠司
6．調査の原因　県営ほ場整備事業
（白鳥上地区）
7．調査結果の概要

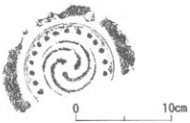
第１図　遺跡の位置（「三本松」）

調査地は、白鳥平野の西部で、湊川と西側に迫る山塊に挟まれた地点である。北側には著明な白鳥廃寺跡が、また、背後に控える山塊から大内平野に派生する尾根上には大日山古墳が所在し、遺跡密度の濃い地域でもある。

調査の結果、耕作土下約20～30cm程下に古瓦を多量に包含する灰褐色砂質土層が所在し、直下の遺構面では、径80cm程の規模を持つ柱穴跡や溝等の遺構を検出した。出土遺物の中には軒丸瓦片が２点含まれており、中世後半～末の所産と考えられる。また、瓦片は地表面にも少量散布しており、遺構面の深度から考えても、造田に伴う大規模な削平を被った可能性が高い。

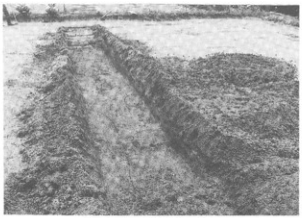
8．まとめ

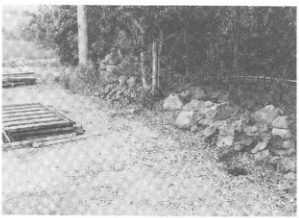
今回の調査は限られた範囲であったため、遺跡の性格・範囲等を確実に導き出せる程度の資料は得られなかった。しかしながら、小字名で「寺前」という地名が残り、調査でも瓦は多量に出土するものの日常雑器がほとんど出土しなかったことから中世寺院跡の可能性が高いと考えられる。



第２図　出土遺物拓影

また、地元での話によると西の裏山中腹で土取り中に五輪塔が大量に出土し、現在では調査地の東側に安置されている。（第４図）この五輪塔群が今回発見された寺院跡と何らかの係わりを持つ可能性は高く、この遺跡の性格を知るうえでの重要な資料であろう。　（塩崎）


第３図　遺構検出状況


第４図　五輪塔安置状況

神越遺跡

1．所在地　大川郡白鳥町白鳥字樋端
2．調査主体　香川県教育委員会
3．調査期間　平成８年７月15日～16日
4．調査面積　約100㎡
5．調査担当者　文化行政課　塩崎誠司
6．調査の原因　県営ほ場整備事業
（白鳥上地区）
7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置（「三本松」）

調査地は、白鳥平野の西部で、大内平野とを画する丘陵と湊川に挟まれた傾斜地である。丘陵上には神越古墳、神越桃山古墳等の古墳時代中期～後期の古墳が点在し、湊川近辺でもかつて石包丁等が表採されていることから古くから周辺部に集落が所在したことが伺える。今回の調査は標記事業に伴う試掘調査の成果に基づき第４図のとおり立会調査を実施したものである。

調査の結果、弥生時代中期後半、後期後半と古墳時代後期の遺構面を検出した。特筆すべき遺構は直径８ｍの円弧状に巡ると推定される幅70～80㎝の溝で弥生時代後期後半段階の土器が多量に出土している。周溝内の土坑からは中期後半の土器が出土しており周溝に伴うものとは考えにくく、主体部はすでに消失しているものと考えられる。また径80㎝～１ｍ程度の規模をもつ大型柱穴跡もほぼ等間隔に並び、掘建柱建物を形成した可能性がある。

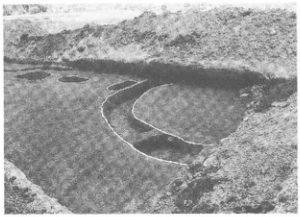
一方、古墳時代後期の遺構面は、弥生時代の遺構面より30㎝程浅い現地表下約60㎝程に所在し、竪穴住居状遺構、土坑等を検出した。土坑からは７世紀初頭段階の坏・平瓶の完形品が出土しており、遺構形成時期も当該期に求められるものと思われる。

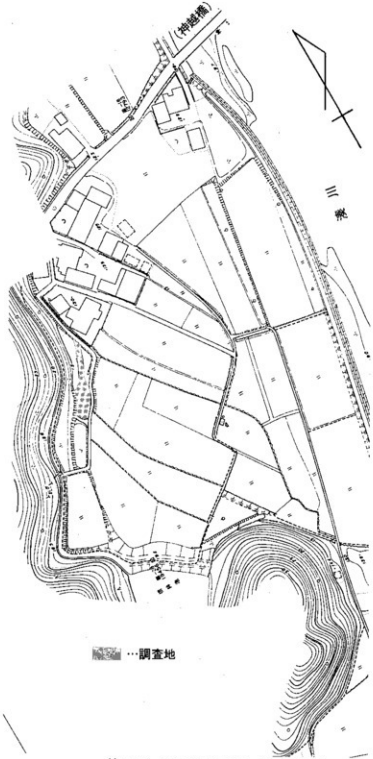
8．まとめ

調査の結果、当該地では、弥生時代中期から古墳時代にかけて集落及び墓域が形成されていることが判明した。しかしながら、調査地の北東は明茶灰色砂層が厚く堆積しており湊川の氾濫原であることが分かる。したがって、遺跡範囲は調査地を境界として、丘陵部一帯に広がることが想定されよう。

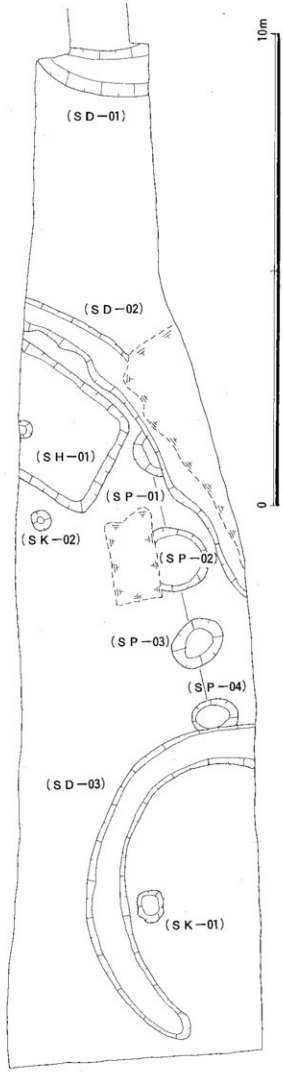
（塩崎）

第２図　遺構検出状況

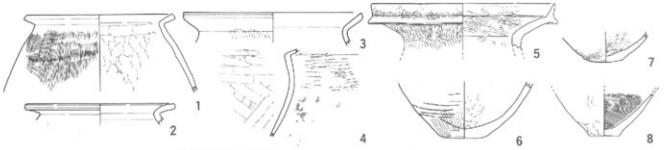

第３図　円形周溝墓状遺構完掘状況



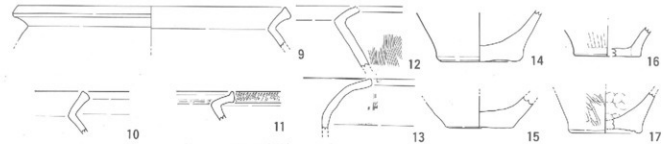
第4図　調査地位置図（1/2,000）



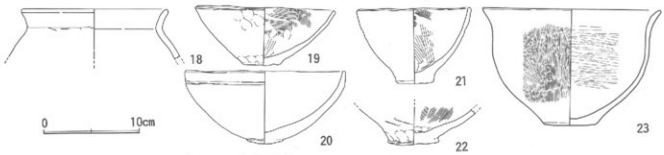
第5図　遺構配置図



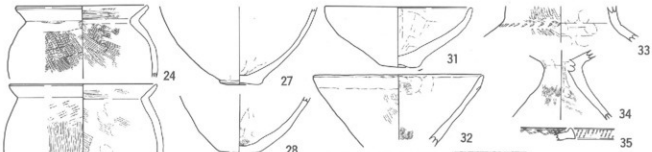
（包含層出土遺物）



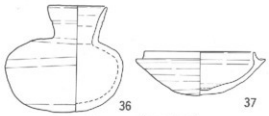
（ＳＫ－01出土遺物）



（ＳＤ－03出土遺物）

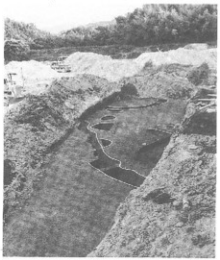


（ＳＰ－02出土遺物）



（ＳＫ－02出土遺物）

第６図　出土遺物実測図



第７図
調査地完掘状況

上母神（かみはがみ）8号古墳（母神山（はがみやま）古墳群）

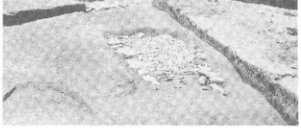
1．所 在 地　観音寺市市木之郷町
　　字上羽上469－内第２－甲　外
2．調査主体　観音寺市教育委員会
3．調査期間　平成８年２月５日
　　～平成８年９月27日
4．調査面積　約2,310.9㎡
5．調査担当者
　　観音寺市教育委員会生涯学習課
　　主事　久保田昇三
6．調査の原因　三豊総合運動公園拡張事業
7．調査結果の概要

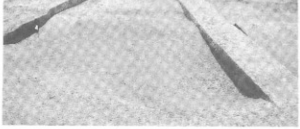
第１図　遺跡の位置（「観音寺」）

上母神８号古墳の特徴を以下に簡単にまとめてみる。
・一墳丘に二つの横穴式石室を持つ円墳である。
・二つの石室は並列せず、第１石室は西北西、第２石室は北東方向に開口している。
・二つの石室間の土層の状況及び周溝の平面プラン等により、二つの石室は古墳造営計画当初より設計プランに組み込まれ築造されたと推定される。
・周溝の検出状況等より推定すると、墳丘直径約19m、周溝最大幅約５mで周構を含めた墓域は直径約27mの規模になる。
・二つの石室の床面は同じように二重構造であるが、第１石室の推定全長は約6.4m、奥壁幅約1.6m、第２石室の全長は約3.8m、奥壁幅約1.2mあり両者の間には明確な格差がみられる。
・石室内の遺物により、本古墳の築造年代は６世紀後半～７世紀初頭のものと推定される。

8．まとめ

今回の調査では、一墳丘に二つの石室を持ち、加えて二つの石室が並列せず異方向に石室を配する状況が確認された。全国的にみても一つの墳丘に複数の石室を持つ事例（前方後円墳を除く）はある程度みられるが、その多くは石室開口方向が同方向で並列しているかもしくは直角に近い形態のものであり、かつ、７世紀前半から７世紀中葉以降のものであるのに対して、本古墳の石室配置形態は極めてまれな事例である。　（久保田）


第２図　第１石室と第２石室(手前)の状況


第３図　第１石室・第２石室(右側)と周溝

久米東塚古墳（母神山古墳群）

1．所 在 地　観音寺市粟井町字母神705番地1
2．調査主体　観音寺市教育委員会
3．調査期間　平成８年10月29日
　　～平成９年３月３日
4．調査面積　54.7㎡
5．調査担当者
　　観音寺市教育委員会生涯学習課
　　主事　久保田昇三
6．調査の原因　観音寺市内遺跡発掘調査事業
　　（平成８年度国庫補助事業）
7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置（「観音寺」）

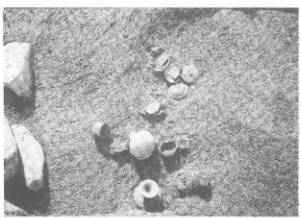
地形測量並びにトレンチ調査の結果、墳丘規模は直径約21mの円墳であることが確認された。なお、周溝を含めた墓域の範囲は径約24mと推定される。埋葬施設は、両袖式の横穴式石室であり、S－1°－W方向に開口しており、石室全長約９m、玄室長約4.8m、玄室奥壁幅約1.6m、玄室最大幅約２m、羨道長約4.2mの規模である。本石室の特徴として、玄門立柱が石室内側に突出する構造をとっていること、玄室の平面プランがゆるやかな胴張りを呈すること、羨道がその中央部の柱状の石を境界として平面プランが外反する構造をとっていることなどがあげられる。出土品には、須恵器（蓋杯、高杯、壺、甕等）、土師器、鉄器（鎌１点）、紡錘車（１点）、耳環（１点）がある。

8．まとめ

調査の結果、遺跡の残存状況は予想以上に悪く片側の羨道側壁が一石を残し完全に失われ、玄室側壁についてもそのほとんどが基底石のみを残す状態であった。また、玄室内部に天井石（大きいもので全長約1.7m、幅1.2m程度）と思われるものが計５石落下している状況も見られた。

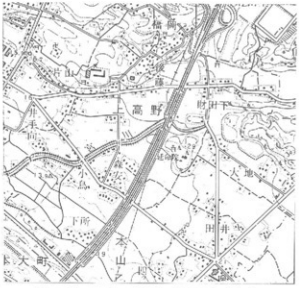
なお、久米東塚古墳の石室は母神山古墳群の内、現在確認されているものの中で、石室全長規模は鑵子塚古墳の9.80mに次ぐ第２位の規模であることが確認された。また、本古墳の築造年代は玄室床面の検出を行っていないが、石室入口付近等からの出土遺物により６世紀後半のものと推定されるが、詳細については、今後の再調査の機会を待ち判断すべきであろう。　（久保田）

第２図　横穴式石室


第３図　遺物出土状況（須恵器）

延命遺跡

1．所在地　三豊郡豊中町大字上高野
2619－1他
2．調査主体　豊中町教育委員会
3．調査期間　平成8年11月28日
～平成9年3月31日
4．調査面積　約330㎡
5．調査担当者　文化財担当　森　裕行
6．調査の原因　道路建設
7．調査結果の原因



第1図　遺跡の位置（「観音寺」）

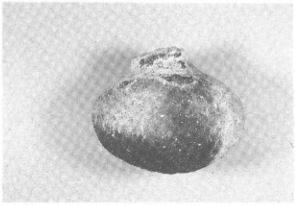
今回の発掘調査は、調査地を9ヶ所定めてトレンチ掘りによる発掘調査をおこなった。

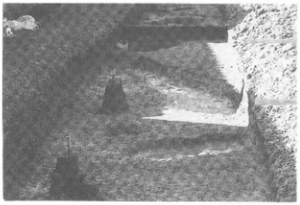
調査トレンチの高速道路より東側では近代の農業設備設置により撹乱された跡が検出された。出土遺物は弥生土器片と近代の野壺片が中心であった。若干の近代磁器も検出されている。一方、高速道路より西側のトレンチより弥生時代の溝遺構と奈良時代の溝遺構が検出された。弥生時代の遺物は小壺2点と壺片と甕片が多数検出された。石器として石包丁、石鏃、サヌカイト片が若干検出されている。奈良時代の皿、杯、椀、甕などの須恵器片、土師器片が多数検出されている。

8．まとめ

調査をおこなった高速道路より東側の部分では近代の撹乱のために弥生時代の遺構は検出されなかったが、出土遺物（弥生土器）の量から考えて、弥生時代の遺構の広がりはかなりだと考えられる。高速道路より西側では若干の弥生時代の遺構の広がりが考えられるが、あまり広範囲とは思えない。奈良時代の条里制に関連した溝遺構が検出されているが、広がりについては不明である。

（森）


第2図　出土遺物（弥生小壺）


第3図　トレンチ状況

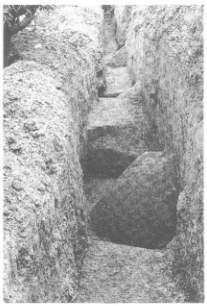
宗吉瓦窯跡

1．所在地　三豊郡三野町大字吉津字宗吉甲155－1他
2．調査主体　三野町教育委員会
3．調査期間　平成8年12月11日～平成9年3月17日
4．調査面積　87㎡
5．調査担当者　白川雄一
6．調査の原因　町内遺跡発掘調査申業
7．調査結末の概要

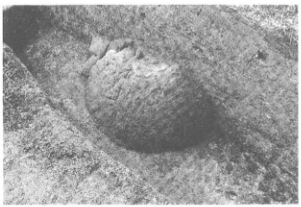
第1図　遺跡の位置（「仁尾」）

トレンチを6箇所設定し、掘削を行った結果、水田部に設定した2トレンチで、谷筋と思われる地山の落ち込みを確認した。また、ミカン畑の斜面部に設定した4トレンチにおいて、中軸線の間隔がほぼ3.5mで等間隔に並ぶ6基の窯跡を検出した。（うち1基は以前の分布調査において所在を確認済）南からそれぞれ、10、12、13、14、15、16号窯と名称をつけた。10～14号窯は天井部が崩落しており、15、16号窯については天井部が残っている。なお、窯の構造については天井部にスサの混入が認められなかったことから、花崗岩の地山をトンネル状に刳り貫いた全地下式構造と考えられる。検出した窯の部分については、15、16号窯の天井部の傾斜を考慮すれば、煙道部に近い焼成部であろう。また、土層確認の目的で設定した4トレンチ拡張部では、15号窯の燃焼部の天井が崩落したと思われる部分に灰土を確認している。4トレンチの南に位置する5トレンチでは、深掘の結果、地山上に約2mの厚さで国川池浚渫の際の土砂が堆積しており、小さな開析谷が存在するものと思われる。また、その開析谷を取り巻くような窯跡群の存在が想定できる。

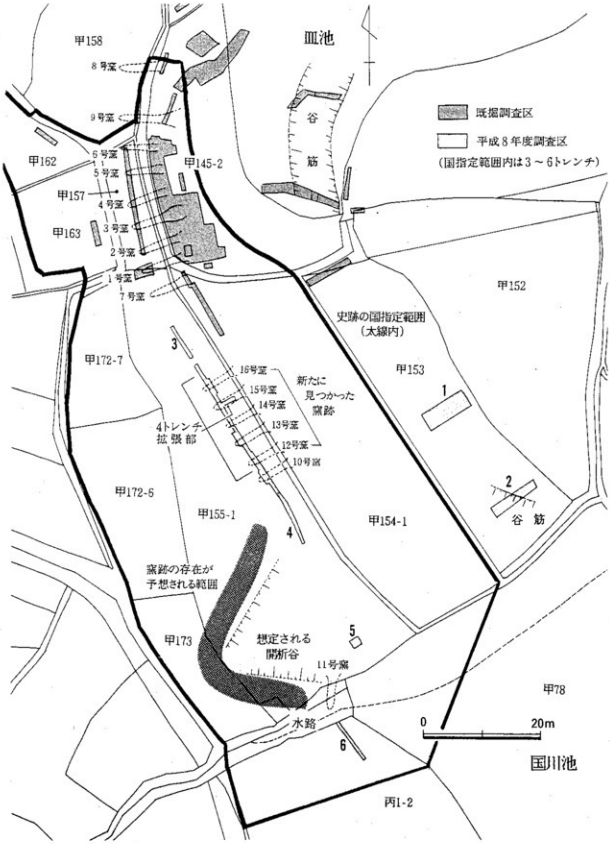
今後も今回の成果をふまえ、継続的な調査を行う予定である。　（白川）



第2図　窯跡群検出状況(北から)



第3図　16号窯検出状況（東から）


甲158
皿池
8号窯
9号窯
6号窯
5号窯
4号窯
3号窯
2号窯
1号窯
7号窯
甲162
甲157
甲163
甲145-2
谷筋
既掘調査区
平成8年度調査区
(国指定範囲内は3～6トレンチ)
甲152
史跡の国指定範囲
(太線内)
甲153
甲172-7
3
16号窯
15号窯
14号窯
13号窯
12号窯
10号窯
新たに
見つかった
窯跡
4トレンチ
拡張部
1
2
谷筋
甲172-6
甲155-1
4
甲154-1
窯跡の存在が
予想される範囲
甲173
想定される
開析谷
5
11号窯
甲78
水路
6
0
20m
国川池
丙1-2

第4図　トレンチ配置図

史跡有岡古墳群（宮が尾古墳）

1．事業の場所　善通寺市善通寺町3214－45
2．事 業 主 体　善通寺市教育委員会
3．事業の期間　平成４年４月～平成９年３月
4．事業の面積　約2,000㎡
5．事業担当者　善通寺市教育委員会
　　笹川龍一
6．事業の原因　史跡有岡古墳群保存整備事業
7．事業の概要

第１図　史跡の位置（「善通寺」）

平成４年度に地中に埋没していた墳丘の形状や範囲を試掘訊査で把握し、翌年土地を公有地化した。そして平成６年度に墳丘全体を検出したが、その際に隣接して遺存していた２号墳が確認された。続けて発掘調査で確認された内容を基に実施設計を行い、平成７年から８年度にかけて保存整備工事を実施した。平成７年度には宮が尾古墳と２号墳の横穴式石室解体復元工事に伴う発掘調査を実施しているが、これまでに知られていなかった多量の副葬品の他、線刻画のある石材が新たに宮が尾古墳墳丘内と２号墳羨道壁面から発見され、それらが接合されたことで、両古墳が同時に構築されたことが判明した。また、遺構の復元整備と併せて、宮が尾古墳横穴式石室の実物大模型と史跡有岡古墳群及び周辺地形模型、陶板による説明板などを設置した。

8．まとめ

宮が尾古墳は装飾古墳として評価が高く、年間を通じて数多くの見学者が訪れるが、遺構は地中に埋没していたためその全容を知ることは困難であった。しかも壁画保護の観点から横穴式石室内部への自由な進入は規制されていた。しかしながら今回の保存整備事業により、遺構の形状が明確に復元された。また、石室や壁画に関しては実物大の精巧な復元模型を作成することで、この遺跡を訪れた見学者に多くの情報を提供することができるようになった。そして史跡内に設置された市内の古墳地帯の立体地形模型や説明板によって、古墳文化や装飾古墳などについてもわかりやすく学習できる施設としての整備が完了し、公開と活用が開始された。

（笹川）

第２図　整備された史跡内部の様子

第３図　宮が尾古墳横穴式石室実物大模型

和霊神社古墳隣接地

1．所 在 地　善通寺市櫛梨町字山浦521－4
2．調査主体　善通寺市教育委員会
3．調査期間　平成８年11月21日～11月22日
4．調査面積　約100㎡
5．調査担当者　善通寺市教育委員会
　　笹川龍一
6．調査の原因　携帯無線電話中継所建設工事
7．調査の概要

第１図　遺跡の位置（「善通寺」）

平成８年７月２日付け文書で、ＮＴＴ四国移動通信網株式会社から携帯無線電話中継所建設工事に伴う埋蔵文化財への影響について協議があった。当該地は和霊神社古墳（既に消滅）が所在していた場所に隣接していたので、詳しい位置関係等を確認するため直ちに現地を踏査した。古墳が所在していた山頂部は過去の神社建設に伴い削平され、墳丘は完全に消滅したが、その際銅鏡が出土したことが記録に残る。今は社殿も無くなり、石の祠だけが円形の平坦地に残っている。一部、墳裾部とみられる箇所が認められたが工事予定範囲からは外れており、直接遺構への影響は無いと考えられた。しかしながら、この山では付近で銅剣が発見されたこともあり、掘削時に立ち合うこととし、その旨を文書で回答した。

掘削は平成８年11月21日に実施した。工事範囲からは遺物は出土せず、遺構も確認されなかったが、作業用重機が通過した際に工事予定範囲に隣接した神社への参道部分から、20cm前後の円礫群と共に土器片が多数出土した。そこでこの箇所を調査したところ、遺構ではなく凹地に二次的に堆積したものであることが判明した。遺物は８世紀代の須恵器と土師器片で、甕や壺など多数の器種があったようであるが、採取された破片はそれぞれのごく一部である。

8．まとめ

出土した土器はその時代から見て和霊神社古墳に伴うものではない。また遺構を伴わないため使用目的はなどは不明であるが、付近に何らかの遺構が存在していた可能性が高い。

第２図　掘削作業風景

第３図　遺物出土状況

町代（まちだい）2号墳、町代（まちだい）遺跡

1．所 在 地　仲多度郡満濃町大字長尾
2．調査主体　満濃町教育委員会
3．調査期間　平成９年３月３日～３月27日
4．調査面積　約112.9㎡
5．調査担当者　満濃町教育委員会
　　平田友彦　片桐節子
6．調査の原因　ほ場整備事業
7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置（「善通寺」）

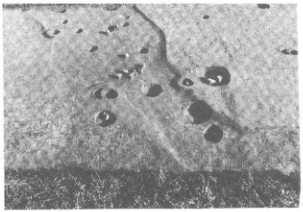
調査は、町代２号墳の周濠確認を目的に今年度は北半分で実施した。その結果、調査区内で周濠を確認したが、それはさらに北隣のほ場にのびており、墳形を確認するには至らなかった。検出規模は幅約１～2.6m、深さ約0.1mを計り、調査区中央部で急に細くなり、さらに北側で墳丘側にだけ拡がりをみる。周濠内からは土師質の円筒埴輪とサヌカイト製石器、奈良時代と思われる須恵器の高台付杯等が出土している。さらに、本来の古墳の墳丘下及び周濠上等で柱穴を多数確認した。ＳＢ－01は主軸をほぼ東西にとる１間×３間（2.6m×5.8m）の掘立柱建物である。柱穴内からはサヌカイト製の石器等が出土しており、弥生時代のものと考えられる。ＳＢ－02は主軸をやや北に振るが、１間×２（３）間の掘立柱建物である。ＳＢ－01と同時代のものであろう。

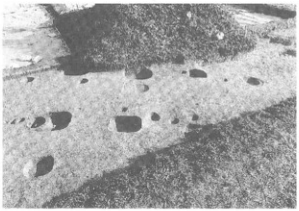
8．まとめ

今回の調査によって、町代２号墳の周辺で弥生時代及び古代以降の集落址を確認した。これは周知されていなかった遺跡であるので、以後「町代遺跡」と呼称する。

平成９年度は町代２号墳の南側半分で調査を実施する予定であるが、ここは猫山から派生した尾根上丘陵の先端部にあたっており、地形的にみても遺跡はさらに北及び東に拡がるものと思われ、周濠についても北側のほ場にのびていることから周辺の調査は必要と考えられる。

（片桐）


第２図　周濠検出状況


第３図　ＳＢ－01検出状況

平池西遺跡

1．所在地　丸亀市金倉町780－1、783
2．調査主体　丸亀市教育委員会
3．調査期間　平成8年4月23日～7月9日
4．調査面積　約1,800㎡
5．調査担当者　丸亀教育委員会　東　信男
6．調査の原因　総合運動公園建設
7．調査結果の概要

第1図　遺跡の位置（「丸亀」）

平池西遺跡に近接する平池は北側に中の池遺跡、東側に平池東遺跡、南側に平池南遺跡が所在し、弥生時代前期から後期の遺跡が広範囲に広がっている。

平池西遺跡の調査は平成6年度に11か所のトレンチ調査を実施し、多くのトレンチから弥生時代前期の土器を含む溝状遺構やピットを検出した。平成7年度から総合運動公園建設に伴う竜川幹線水路建設のため発掘調査を実施しており、平成7年度は縄文時代晩期～弥生時代前期の遺構を検出した。とくに弥生時代前期の河川跡から赤漆の木製品が出土している。

平成8年度調査はこの水路工事の継続事業で、弥生時代前期の土器片やサヌカイトの細片が出土した土こうやピット、構状遺構、集石遺構を検出した。残念ながら水田耕作により、遺構面は掘削を受けており、明確な住居跡の検出はできなかった。

また、河川跡から前年度同様、縄文時代晩期の石器や土器片が出土し、特に赤漆が塗られた縄文時代晩期の浅鉢も2点出土した。

8．まとめ

水田耕作により、弥生時代前期の遺構面は掘削され住居跡と特定できる遺構の検出はなかった。しかし、土器や石器の出土状況から生活の痕跡がみられ、中の池遺跡と関連する遺跡と位置づけられる。また、河川跡には流木と縄文時代晩期の土器を含むものがあり、この河道が中の池遺跡の方向に延びていることから、中の池遺跡の周辺にも縄文時代晩期の遺跡が所在すると推定される。

（東）

第2図　縄文時代晩期土器出土状況

第3図　漆塗り浅鉢口縁部分

平池東遺跡

1．所 在 地　丸亀市金倉町911、918
2．調査主体　丸亀市教育委員会
3．調査期間　平成８年11月12日～23日
4．調査面積　約200㎡
5．調査担当者　丸亀市教育委員会　東　信男
6．調査の原因　丸亀総合運動公園ふるさと交流広場新設
7．調査結果の概要

第１図　遺跡の位置（「丸亀」）

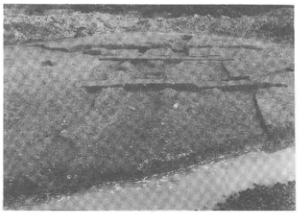
平池東遺跡は、平池と汐入川に挟まれた場所にあり、平成４年度に試掘調査と発掘調査を実施した。調査結果から溝状遺構を３条検出しているが、これらの遺構から遺物は殆ど出土していない。

本年度調査は水路工事の近くで、平成４年度調査に周溝となるような溝状遺構を一部検出していることから、確認のため試掘調査をした。調査結果からこの遺構は周溝でなく蛇行する溝状遺構と判断された。また数条の溝状遺構も検出した。

平成４年度に実施した調査地の北側で本調査を続けて行ない、平成４年度に検出した溝状遺構の続きを検出した。この遺構は旧河道が埋まり溝として残ったものである。河川跡の土層から弥生時代前期の土器片が多数、石包丁が数点出土しており、めのうの未製品も出土した。

8．まとめ

平池の東側に位置する当遺跡は、旧河川が中央に位置し、この河川から引いた溝状遺構や土こうを検出しており、弥生時代前期の土器片が多数出土する。しかし、水田耕作や近年の瓦粘土採掘のため遺構面は掘削されており、住居跡など生活の痕跡を示す遺構の検出はなく、溝状遺構や河川跡など遺構面を深く掘削した遺構しか残っていない。　（東）


第２図　検出遺構（河川跡）

第３図　めのう出土状況

史跡丸亀城跡

1．所 在 地　丸亀市一番丁
2．調査主体　丸亀市教育委員会
3．調査期間　平成９年１月28日～２月14日
4．調査面積　約170㎡
5．調査担当者　丸亀市教育委員会　東　信男
6．調査の原因　史跡丸亀城跡御殿跡整備事業
7．調査結果の概要

丸亀市立資料館保管の絵図によると京極氏侍代の御殿跡が資料館とその北側にある芝生広場の辺りに描かれている。

明治２年御殿跡が消失し、陸軍の施設となり、その後、少女の家、バレー・テニスコートとして使用され、現在に至っている。

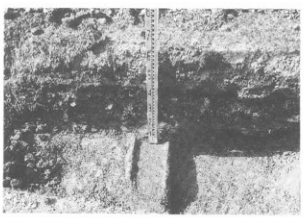
第１図　遺跡の位置（「丸亀」）

御殿跡の範囲確認のため、試掘調査は南北に30mを越えるトレンチを５か所設定した。バレー・テニスコートの排水処理用の河原石とコークスや観覧席の基礎コンクリートを検出した。その他検出遺構は御殿跡の附属施設と考えられる土塀跡や凝灰岩製の排水溝や明治時代以降の排水溝、建物礎石を検出した。特に東南部のトレンチからは焦土層と焼けた壁土を検出した。

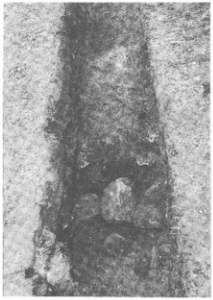
出土遺物は江戸時代の瓦片と陶磁器片が少量出土した。

8．まとめ

調査結果によると、バレー・テニスコート及び観覧席として使用した範囲の遺構面は掘削され消失している。しかし、その周辺部では、江戸時代の遺構や明治時代以降の建物基礎を検出している。現存する御殿門あたりとその南側は江戸時代の遺構が良好に残っているものと推定される。特に焦土層の検出は明治２年の御殿消失を証明する手掛かりとなり、今後の調査に期待がもたれる。　（東）



第２図　凝灰岩製排水路



第３図　土塀の礎石と焼けた壁土